京城日報 夕刊 一月四日（月）

カーバイト 機械油 京城府太平通三丁目 勝京城支店

室第〇〇師團長 愈よ錦州に入城
＝三日午前十時＝
師團司令部も同地に移さる

【溝帮子三日午前十時四十五分發至急報】今朝七時溝帮子を出發した室第〇〇師團長は幕僚を隨へ今朝十時錦州に入城、之と同時に師團司令部も同地に移された（號外再錄）

日本軍の名で 治安維持を布告
室師團長入城と共に

【奉天三日午前十一時發電通至急報】今朝十時錦州に入城した室第〇〇師團長は直ちに本庄關東軍司令官及び大日本軍の名を以て治安維持に關する布告を發した（號外再錄）

嘉村旅團の主力隊 黎明を衝いて入城
依田旅團の先鋒と共に

【奉天三日發電通至急報】双羊甸にて隊伍を整へた嘉村旅團主力部隊は依田旅團先鋒と共に本日黎明行軍を開始し午前七時東天よりさし昇る陽光を拜しつゝ威風堂々錦州に入城した（午前九時五十分著電）（號外再錄）

軍人勅諭御下賜 五十周年を迎ふ
陸海軍兩相誓詞を捧呈し 更に勅語を賜ふ

【東京電話】四日は軍人勅諭下賜五十周年に當るので荒木、大角陸海兩相は午前十時宮中東の間に於ける政始初めの御儀終了後、謁見所に於て元帥閑院宮殿下參列、東郷、上原兩元帥不參、奈良侍從武官長侍立の上 天皇陛下に拜謁仰せ付けられ、大角海相より陸海軍大臣の名で陸海軍々人が聖諭を奉戴し益々報效の途に精進し陛下の信倚に對へ奉らんことを誓ふ誓詞を恭く捧呈したるに、陛下には畏くも陸海軍々人に優渥なる勅語を賜ひ、これに對し大角、荒木海陸兩相は謹んで奉答文を捧讀しこれを捧呈、午前十時四十五分御前を退下した

誓詞

臣 大角岑生
臣 荒木貞夫

誠恐誠惶謹テ奏ス
陛下登極ノ初特ニ聖勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒ先朝ノ訓諭ニ遵由シ宇内ノ大勢ト時世ノ推移トニ鑑ミ操守ヲ固クシ至誠ヲ捧クヘキヲ訓ヘ給フ臣等感激ノ至ニ勝ヘス拳々服膺シテ夙夜懈ラス唯及ハサラムコトヲ恐ル謹テ按スルニ明治十五年一月四日勅諭ヲ陸海軍人ニ下シテ五條ノ大綱ヲ示シ給ヒシヨリ叡旨奉戴ノ恩光ニ浴スルコト爰ニ五十年臣等忝シキヲ股肱ノ重任ニ承ケ深ク聖旨ヲ肝銘スル此ノ記念日ヲ迎ヘテ恊々ノ微忱自ラ止ムヘカラス益志氣ヲ振作シ奮勵精進シ先士ノ志ヲ繼キ後人ニ矜式スル所ヲ知ラシメ終始一貫上下力ヲ協セテ以テ
陛下ノ信倚ニ對ヘ國體ヲ擁護シ宏猷ヲ翼贊シ奉ラムコトヲ誓フ伏シテ希クハ
叡鑒ヲ垂レ給ハムコトヲ臣等誠惶誠恐謹テ奏ス
昭和七年一月四日
海軍大臣 臣 大角岑生
陸軍大臣 臣 荒木貞夫

勅語を賜ふ
更に陸海軍人に

【東京電話】四日陸海軍人に賜はりたる勅語左の如し

勅語

皇祖考特ニ明勅ヲ陸海軍人ニ賜ヒシヨリ茲ニ五十年汝等克ク五條ノ大綱ヲ守リ皇考ノ遺訓ヲ奉シ朕カ意ヲ體シテ日夜軍人精神ヲ發揮シ力ヲ協セ心ヲ一ニシテ報效ノ實ヲ擧ケ忠良ノ誠ヲ攄ス朕ハ切ニ汝等ヲ股肱ト賴ミ先朝ノ愛撫シ給ヘル軍隊ニ信倚シテ國運ヲ恢弘シ國光ヲ宣揚シ以テ列聖ノ照鑒ニ對ヘムコトヲ庶幾フ汝等軍人益々職分ヲ勵ミ愈々國礎ヲ固クシ其ノ重任ヲ全クセムコトヲ期セヨ

奉答文

右勅語に對する陸海軍大臣の奉答文左の如し

勅諭拜受ノ五十周年ニ値リ優渥ノ聖旨ヲ賜リ恐懼措ク處ヲ知ラス臣等聖旨ニ感激シ信倚ノ愈々重キヲ思ヒ心力ヲ竭シテ忠節ヲ勵ミ股肱ノ本分ヲ全クセムコトヲ期ス

朝鮮軍司令部 嚴な誓詞朗讀式
軍司令官より訓示

勅諭を下賜されて、はやくも五十年、一月四日はその記念日を迎へて朝鮮の各軍隊でも午前九時から一齊に莊嚴なる式典を擧行した。朝鮮軍司令部では同時刻林軍司令官以下屬官以上の全職員會議室に參集して先づ御眞影を奉拜、林軍司令官勅諭を奉讀、ついで陸海軍大臣が參內して誓詞を上奏する時刻十時三十分誓詞朗讀式に移り、終つて林軍司令官は訓示を試み、こゝにもつとも嚴肅裡に式典を終つた。なほ龍山師團をはじめ各隊でも同時刻それ〴〵御眞影奉拜、勅諭奉讀式、誓詞朗讀式、訓示の順序で莊嚴な式典を擧行し將士の心構を新たにして將來士氣を昂然たらしめた

聖上御親祭のもとに 宮中元始祭
きのふ嚴かに行はる

歳の首めの重き御祭典元始祭は三日午前十時宮中賢所、皇靈殿、神殿に於て天皇陛下御親祭の下に嚴かに行はせられた、この日三殿は式部職員によつて神々しく裝飾され先づ賢所に秩父宮、高松宮、閑院宮各殿下はじめ皇族方御參列、犬養首相以下各國務大臣、倉富、平沼正副議長以下勅任官以上の文武官參列、やがて神さびたる神樂歌の裡に掌典は御饌を調へ數々の神饌を供へ九條掌典長は恭々しく祝詞を奏し奉る。終れば天皇陛下には御束帶黄櫨染御袍を召され林式部長官、一木宮相前行、鈴木侍從長、奈良武官長以下供奉申上げ引續き皇后陛下には御五衣、御小袿、御長袴の御裝ひで河井皇后宮大夫前行女官御後に候して出御、天皇陛下には高木内掌典の奉仕する森嚴なる御儀の儀のうちに畏くも御拜御聲朗らかに御告文を奏し給ひ次いで皇后陛下御拜禮の後各皇族方の御拜禮があつて兩陛下には入御、次に參列諸員の拜禮あり再び奏樂裡に掌典は神饌を撤し御扉を閉ぢて滯りなく御祭典を終へさせられたが引續き皇靈殿、神殿に於て御同樣御祭典を御執行あらせられた

宮中政始の儀

宮中は嚴に晴れの御儀のうちにはや正月三日も過ぎて四日午前十時この年の政をはじむる政始の儀が嚴かに行はせられた、この日九時四十分頃に犬養首相以下各國務大臣、一木宮相、倉富樞密院議長、通常禮服又は通常禮服に威儀を正して參內御儀場たる宮中東一の間に參入すれば天皇陛下には陸軍通常御禮裝を召され林式部長官前行、牧野內府、鈴木侍從長、奈良武官長以下供奉參らせて御儀場に臨御あらせられ、玉座に著かせられ、牧野內府、鈴木侍從長、奈良武官長は屏內に候しその他の供奉員は屏外に候す、かくて諸員參進本位に着けば森內閣書記官長以下內閣書記官、關屋宮內次官以下宮內書記官屏外に候し先づ犬養首相、久邇神宮祭主宮殿下より奏上の神宮の事を奏し次で各廳の事を奏して退下、續いて一木宮相は皇室の事を上奏終つて陛下には御機嫌麗はしく入御、こゝに政始の儀を滯りなく終へさせられた

京日春秋

◇室師團長及びその部隊が、昨三日、無事錦州に入城した。住民はいづれも日章旗を揭げて迎へたといふ。慣れ切つたものである。

◇錦州占據は滿洲事變第一卷の終りである。少くとも大だてな軍事行動の終局が來たと考へて差支へない。是からは連絡を失つて四方に散つた兵匪を討伐したら事は足りる。しかし、其の討伐が仲々面倒である。戰さといふよりは、豚狩りであり、匪賊の根だやしである。それだけにまた油斷はならぬ。

◇錦州方面の支那軍を掃蕩するとは、唯、彼等を屏息する意味ではなく、全滿洲に亙つて策動する兵匪の策源地を潰す意味である。從て今後は、たとへ策動の本部はしくれでも存續せしめてはならぬ。はしくれの存續は兵匪策動の存續であり、わが駐屯部隊を永續的に疲れさす所以である。苟くも我軍に抗する官兵、若くは滿蒙治安に出沒する兵匪の如きは、之を根絶して殘孽をもとどめぬ程度に掃蕩し盡さねばならぬ。要するに、掃蕩は豚狩りであり、大掃除である。如何に割引して考へても、わが兵馬をさめるのはその後でなければならぬ。

◇知らず、ウラルアルタイ系か高天照民族か、いづれにしても似たりや似たり花あやめであるかんである。

◇寒いのも一得である。京城の正月は灘北あたりより正月らしい。たゞ希くは、活景として、獅子舞ひや、まんざいの訪づれが欲しい。

◇東京では非常解散を希望してゐる。我等も賛成である。併し、犬養と若槻では妥協は出來まい。

◇解散もいい、內閣の地がためもいい。が、新議會の第二囘は一たいどうなることか。

◇火事は江戶の花とうたはれて以來、出ぞめ式の神乘りは消防夫の誇りであつた。近年は此の日、ゆくりなくも京城の神乘りを瞥見して思はず歩みをとめた。形の上の京城風景はもうほゞ整つてゐる。

ハルビンにて 露支人の衝突
白晝市街戰を演じ 形勢惡化の模樣

【ハルビン三日發電通至急報】三十一日支那人とロシア人と紛爭に端を發し「支那人を毆殺せよ」と絕叫するロシア人群衆は決死隊を募り三日正午よりハルビン唯一の大通りの交通を遮斷し午後一時三十分警官隊と衝突ピストルを亂射して白晝市街戰を行ひ死傷者多數の見込みで形勢惡化の徵あり

灤州を中心に 兵力を集結
善後措置を講ず

【北平三日發聯合】東北軍參謀長榮臻は張學良に對し錦州以東に在つた第十二、第十九、第二十の各旅及び打虎山にあつた騎兵第三旅を全部關內及び灤州に撤退し遼寧省政府は遂につゝがなく二日灤州に移轉した旨を報告して來た即ち今後灤州を中心として兵力を集結し善後措置を講ずる事となつた謂で恰かも奉天の政權が錦州に移つた際と相似た形で學良の對內府外關係に急激に變化しない限り當分この形をつゞけて行くものと觀測される

萬歲、萬歲の聲 錦州城を震撼
三日の朝天に飜へる日章旗 皇軍入城の光景

【錦州三日發電通至急報】待望久しき錦州入城の日、幾旬となく我將士は頭に幻影となり夢寐となつてみた錦州も最早眼の前だ夜の帳はまだ拂はれず午前五時と云ふ曉の空には下弦の月が青く澄み星の光は凍る樣だ、準備萬端整つた鐵道隊の柴田大尉の部下を指揮する鋭い聲が響いて來る裝甲列車は黑煙を吐いて出動命令を待つてゐる瀧谷大尉の率ゐる騎兵隊は傍の管も勇ましく前後をついて進發する暁で午前六時五十分石井中尉の乘つた裝甲列車第二隊は鐵道を迎撃に眼指す錦州に向つて西驅する續いて後藤中尉の指揮する車が出ると柴田鐵道隊長の『發車』命令が鐵路の音に混つて聞えて來る、輛の轟きを押へてこの一瞬を待ちかまへた裝甲列車隊は轟然の音高く勇躍して發進する、錦州を圍繞する山々には斷々する殘雪と鉢卷なりに捕はれた敵の殘骸が二重三重と取り圍み、山腹には物凄い砲壘が斷續して山間を縫ふて眞白く連續した小凌河が凝つてゐる。この天險に據り要塞を構へて兩軍數萬の兵隊を有した錦州兵が一戰も交へずして遁走、潰走するとはまるで狐につまされた樣だ若し城を圍む山々と無數の斷崖堡壘に據つて我軍に抵抗すればチチハル、昂々溪の如き激戰を惹起し思ひもよらず多大の死傷を我軍に與へ非常な激戰を演ずるに至つたであらう、山嶽の險阻な飛行場も格納庫も人子一人居らず我が部隊は錦州東の余りの呆氣なさに拍子拔けし乍ら前進すると遙に滿洲特有の喇嘛教の高塔が我が錦州驛のブリッヂが見える、裝甲車は黑煙を吐き乍ら一氣に錦州驛に突進、午前七時三十分目出度く入城、旭光東天に映え我軍が奉天を發して五日目、この日、恰も元始祭の佳日に當る。寄續である。柴田大隊の裝甲車について飛山野戰兵〇隊の渡谷中尉は日章旗を先頭に蹄の音カツ〳〵として威風堂々東門より入城し要衝の地は錦州城內を設備する、〇〇大佐の歩兵〇〇聯隊、中島大佐の〇〇聯隊は相前後し歩武堂々入城し嘉村旅團長以下幕僚は錦州政府に司令部を設け直に城內治安維持に當つた斯くて東北軍閥の唯一の牙城は一たまりもなく倒された（三日午後六時著）

各相西下
伊勢神宮其の他參拜の爲

【東京電話】前田商相は伊勢神宮並に畝傍山陵、桃山御陵等參拜の爲め五日午後九時四十五分、三土

滿蒙自由國建設の 聯省會議召集
學良の軍權全く驅逐されて 愈よ實現の機運到る

【奉天四日發聯合】錦州政府の潰滅に依り遼西一帶は完全に奉天政府の管下に入り茲に多年東北に雄を構へた張學良の軍權は全く關內に驅逐されるに至り、滿蒙三千萬民衆の希望する滿蒙理想郷は奉天の臧式毅、吉林の熙洽、黑龍江の張景惠、熱河の湯玉麟の聯省自治に依つていよ〳〵實現することとなり、各省政府代表は新年祝賀の名目で奉天に參集し臧式毅、張景惠等を中心に密議しつゝあるがいよ〳〵五日中に滿蒙自由國建設のため聯省會議を召集する運びとなつた

江口副總裁 あす入城
總督と面會

江口滿鐵副總裁は東上の途中五日午前九時四十分京城驛着列車で村上鐵道部長同伴入城、宇垣總督と面會の上即日退城の豫定であると

林財務局長 明夕歸任す

昨年十一月十二日東上以來中央政府と七年度本府豫算の折衝を重ねてゐた林財務局長は要務の一段落を見たので五日午後七時京城驛着列車で歸任することになつた

牧山耕藏氏 久振りで入城

拓務政務次官を辭し朝鮮新聞社長に復歸した牧山耕藏氏は今四日午前八時五十分久方振りに入城した

辭令【東京電話】

拓務省殖產局長心得兼文書課長 阪谷希一
免文書課長兼務
拓務書記官 永井四郎
命文書課長

會

新願祭 滿家同胞後援會は三日午前十一時から總會長前田少將指揮中將はじめ數十名の會員その他參列、滿洲在住同胞の發福と出征將兵の武運長久、國家隆盛の祈願祭を朝鮮神宮で執行した

◇消防組出初式 五日午前十時漢江人道橋下水上にて擧行、正午から與隊學校にて祝宴を催す

人

◇松本君平氏（政友會代議士）滿洲行の途次四日朝七時入城、朝鮮ホテルへ
◇木村雄八氏（江原道警務課長）挨拶のため四日來社
◇江口滿鐵副總裁 村上鐵道部長同伴五日朝釜山發八列車にて入城の筈
◇池田秀雄氏（本社社長）三日午前十時京城驛發東上
◇村上侃勢松氏（朝鮮運送重役）三日夜入城、帝國旅館へ
◇河口眞氏（朝銀秘書課長）東上中のところ三日歸城
◇伊森明治氏（殖銀理事）滿蒙旅行より四日朝歸城
◇植野勳氏（同上）三日遼陽より歸城
◇矢鍋永三郎氏（同上）五日海雲台より歸城する
◇加藤鮮銀總裁 滯京中本月十日頃歸城豫定のところ二月下旬總會開催まで滯京する模樣

あすの天氣（4）

高氣壓は南支那から南鮮および本邦西部にひろがり滿洲北部には低氣壓が東行しつゝあり、全鮮一般に天氣よく朝鮮で氣溫は昨日よりやゝ高い。明日は曇勝ちで暖いだらう

京城 第一豫 曇後晴
昨日最低零下 二・一（攝）
今正午 七・九（攝）

明日は休刊
明後日より平常に復す

本日夕刊十二頁

樂觀人氣集中し 眞に一陽來復
株式初立會より爆騰

新興の氣漲る 京取の初立會

暗澹たる不況のどん底から金再禁止と滿蒙問題との二つの大きな光明に惠まれた株式界は、希望の昭和七年を迎へて一陽來復そのものである。特に京取に於ては久しき懸案の京取問題の圓滿なる解決を見た事とて新興の氣勢も男々しく、東京の株式京取の米取にの對應する東洋三大市場への進出を意氣込み、初立會にふさしき活氣をみなぎらして、山崎高揚長の發聲も朗かに四日午前九時三十分より恒例の初立會を開始した（寫眞は京取初立會）

一陽來復の春を迎へて株式は樂觀人氣濃々として張り合ひ新甫高をうけて活況裡に始まり、先づ京取は六ケ年に亘る懸案解決に一氣に强硬を見せて、買人續出盛から一躍十八圓丁と手堅く買いて東新、大新も東西高小十圓飛びの東新百六十八圓四十錢、大新八十圓四十錢と顏る氣での寄付から東新は松山、白井の買進みにこれ盤田心が來往を續け再び相小強んで東新百六十八圓丁と止め、京取は步七圓九十錢もつけ七圓十錢、大新八十四圓四十錢と總硬なる商情裡に生氣を帶びつゝ打止めた

◇だが買方自身に金融貿易取引禁再禁止の波及をもう少し冷靜に批判する必要はないか、認識不足、觀察は大怪我の下

◇まして場內に動き人氣の呼吸をゆく相場だ、相手は、先づ戒心をすゝめておく

株界 片語

乾坤一擲は一轉、森羅萬象悉く新らしき衣をまとひ片岡子また喜悅を一つ加へ新らしきペンを握り、先づ賀辭を申述べる

◇扨て本年の本欄も相變らずの御辭の羅列に終らんを憂ふるが、丁と出るか半とか、五十年の玄人も理會けするのが相場の當否、年頭にお斷り申上げておく

◇あらゆる財界現象に一陽來復の新春、バロメタである株式が一ほれる筈のものでもなく初立會から緣騰だ

◇金再禁策に滿家相場だ、新甫は勝つた、定期から脱せよは强氣の云ひ分、人氣の趨向

新取引所發會

元旦の吉辰をトして正式免許を與へられた釜山、大邱、群山、木浦の四米穀取引所は各れも四日初立會を示し取引所としても產聲をあげた

◇釜山 寄付 二十二圓十錢 止め 二十二圓八十五錢
◇大邱 寄付— 止め 二十三圓丁
◇群山 寄付 二十一圓九十錢 止め 二十二圓四十錢
◇木浦 寄付— 止め二十二圓十錢

米割日歩申合
一錢五厘一本

甲、乙兩種正米證券に對する割引日歩は一月一日より一錢五厘一本とすることに關係銀行に於て申合せた

京城手形交換高（四日）
枚數 一〇、〇五七枚
金額 二、四六九、九七三圓

劈頭の第一撃から 金禁景氣を謳歌
期米活況裡に始る

四日吉例の初會は折柄の溫さと金再禁で好景氣に燃へて居る際とて地方から來客が續々と押し寄せ市場はいつもにない盛況午前八時半鐘を合圖に荒井社長新年に迎へられて商場に現れ年頭の祝辭が述べられると桑野委員長代つて答辭を述べ例年の慣例に依り別項の通り取引所並に取引員組合から店主店員に對する表彰式を擧行して初會式を終り九時立會の鐘が鳴り渡るや市場は緊張して新春劈頭の第一節と共に忽ち買人の手は入り亂れたが客年中の納會新と賣り市に於ける正米の堅調に販油新甫三月限が八十八錢の上鞘初値を受けて買物殺到し當限二十一圓二十錢と中物より六七十錢高に寄付きその後務に新甫三月限は二十二圓買ひから始まつて五十錢買ひまで現れしも採算筋の手利食ひに押されて二十一圓九十錢と中物より七十錢高に寄付き後場は忽ち二十三十錢と堅き商狀を生し採算所の手控へに二節は廿七錢と小強みせしも買物手控へに二節は廿九錢と呼び卅九錢と强硬な商狀を呈して初會を終つた

ミカサカイロ
温い贈物
慰問袋に
外出に家庭に
事務に旅行に
風邪の豫防ともなり
溫灸治療器ともなる
優美・輕便（コンパクト形）
炭は銀色手につかず・保溫長時、立消へせぬ
（デパート、藥店、雜貨店にあり）
東京市日本橋區室町
株式會社 鳥居商店
電話日本橋（二四）三一八六番

君が爲め春の銀座のまちに出でトリカピンなど求め來しかな

最高級 滋養 葡萄酒

內科 胃腸科 腦神經病
北島醫院
京城本町四丁目百五十五番地（電話本局二三一四番）

債券相場
本年の御投資は確實有利なる勸業、復興債券へ
五千圓、三千圓、二千圓 當籤者續出す
當店の簡易貸付
國債、公債、勸業債券擔保、低利に即時ご融通す
○御注意…外交員出張員一名も使用せず
右相場一月十五日迄（各種案内書進呈す）
▲印來月くじ（郵券送料一口十三錢）
京城府黃金町二丁目百廿一番地
日本勸業證券株式會社 京城支店
電話光化門九七三番、振替京城二九七番
（本店東京。日本勸業銀行構內）

回別	賣値	買値
[illegible]	[illegible]	[illegible]

朝鮮神宮の元始祭

李王世子殿下 御命名式

玖殿下と申上げる

【東京電報】去る二十九日御誕生あらせられた李王世子殿下御命名式は御七夜の一月四日麹町紀尾井町の御殿で行はせられ御親父垠殿下親く玖殿下と御命名あらせらる

宮內省告示

昭和六年十二月二十九日誕生あらせられたる李王垠殿下の御王世子本日名を玖と命ぜらる

昭和七年一月四日　宮內大臣　一木喜德郎

神宮の元始祭

三日嚴そかに執行

三日は報本反始、政治初めの元始祭である。この日朝鮮神宮では午前十時恒例に依つて元始祭が執り行はれ總督代理大村鐵道局長、貴族代表李王元子爵、文官代表牛島內務局長、武官代表佐藤憲兵隊司令官、各道代表松本京畿道知事、京城府民代表井上府尹、張憲植中樞院參議、金完鎭同、西欄地方課長その他數十名參列午前十時三十分いと嚴かに今日の式典を終つた

國民保健體操

五日に初會

『早起』と『體操』に力を注いでゐる國民保健體操會初會は五日午前七時より京城府廳前廣場の體操場で府尹外官民多數の來會を迎へて盛大に行ふこととなつたが當日の式次第は一、開會の辭、二、君が代、三、遙拜、四、體操、五、體操、六、體操歌であるが同會のモットーである『健康』は先づ早起きと體操』從つて多數の參加を希望してゐる

恒例の遠乘會

五日に擧行

朝鮮乘馬倶樂部主催の恒例の遠乘會は五日擧行數名の麗人騎士を加へた約二百余名の騎士は午前九時飛山野砲隊營庭に勢揃ひして三坂通りを經て西の與道傳ひに朝鮮神宮に參拜し出征皇軍の武運長久を祈願して優城路を下り賞町に出て新町に進み奬忠壇を經て南山を一周して約二里の行程を終へて偕行社に引揚げお茶の會を催して解散するプログラムになつてゐる

ガンヂー翁遂に英國官憲に捕はる

そのまゝ中央刑務所へ

【ボンベイ三日發電】反英抗爭を開始する旨聲明し印度總督ウイリンドン卿に最後通牒を叩きつけた印度國民會議派の總帥ガンヂー氏は三日夜遂に英官憲に逮捕された

國民會議長も逮捕

【ボンベイ四日發至急電報】ガンヂー翁の逮捕に引續き全印國民會議長パテル氏もまた逮捕された、斯くして既に逮捕された者は印度の總帥ネール氏と共に首腦者の逮捕すでに數氏に至る

別報

【ボンベイ四日發電】全印國民會議派の指導者ガンヂー、同議長ラブハイ・パテル兩氏は今朝警察官の手に逮捕されそのまゝ自動車に乘せられプーナ郊外エラウダ中央刑務所に收監された

印度各都市は不安の巷と化す

政廳との協定遂に成らず

ガ翁三度目の逮捕

【ボンベイ四日發至急電報】印度國民運動の指導者ガンヂー翁は昨三日遂に逮捕された。因みに翁は第二次英印圓卓會議の結果に不滿を抱いて過般印度に歸り爾來政廳に迫やる國民會議派の統制を穩和へんと政廳との間に協定を遂げせんとして總督ウイリンドン卿に會見を申込んだが、總督は非常不服從運動中止の條件の下にガンヂー翁との會見を拒否するに至り、遂に國民會議派と印度政府との間は全く絶望し、大勢ガンヂー翁の逮捕は、殆んど既定の事實と見られてゐたのである。而してガンヂー翁今回の逮捕は實に三度目で、比類なき統制を誇る國民會議派の反英抗爭を中心に千九百三十二年の印度各都市は不安の巷と化してゐる

反英抗爭

非暴動的に指導

ガンヂー氏聲明す

【ボンベイ三日發電】反英抗爭を聲明したガンヂー氏は前印度總督アーウイン卿に對し予は最後を遂したが失敗したと聲明し且新聞記者との會見で左の如く聲明した

予は今次反英不服從運動の再燃の結果に對して全幅の責任を負ふものである、又抗爭をして非暴動的のものとして指導するためには凡ゆる努力を拂ふであらう、此抗爭は恐らく數年續くものと期待してゐる

政廳と國民會議派

確執益々尖鋭化

【ボンベイ二日發電】印度政廳とガンヂーの率ゆる印度國民會議派との確執は益々尖鋭化し政廳はガンヂーその他國民派の有力な領袖連を結局捕縛するに至るべく特別命令を發せんとする可能性さへ出て來た狀態となつたので國民會議派運營委員會は第一の場合を豫想し此種の事態に處すべき諸般の緊急手段としてガンヂー翁が捕縛された場合その他多數を可決した

陣中美談

病める兵士

喜びの一彈

大淩河を眞先に渡つた吉村小隊

錦州部隊吉村旅團司令部下の先發中島部隊○○騎兵はサイドカーと裝甲車に分乘し、卅九日午後六時新民屯を出發、一時早くも錦州近く大淩河の線に進出するに至つたが、夜りつゝ寒さも零下二十度の大淩河渡河戰において雄中○○騎兵○○中隊長の率ゆる吉村小隊に勇ましき陣中美談があることが日に至りやうやく判明した

◇

正月元旦、常ならば『トソ』に『お目出度う』を祝ふ日、黎明早くも中島騎兵隊は全軍に對し大淩河對岸の錦州軍に對し攻撃を開始した。滿洲特有の巨大な黄色な太陽が凍結した大淩河上に輝くとき頭を破つて一番乘りを企てたのは吉村小隊であつた。飛來する敵彈、目前に豆をいるやうな小銃の響き、連續的機關銃の音、頑強に抵抗する兩面の敵を余り頼くない大淩河を挾んで吉村小隊は逸る心を抑へつゝ氷上渡河の好機を狙つてゐた午前十時近くいよいよ斬壕をのりこえて氷上渡河を決行せんとする折小隊にまた一兵卒が昨日より腹痛にかゝり病んでゐるのを發見、兵卒といふ兵卒が斬壕より乘り出したのを見た小隊長は矢庭に病める兵卒を斬壕上に抱き上るなり『君も打ちたいだらう。こゝまで來たのだ。そら敵だ。打て!』と自ら引金をひいて病める兵士に發砲を命じた。あゝ大淩河の氷上に病める兵士を抱き上げる小隊長の眞情よ!、兵士は涙を流して喜んだ、勇んだ。敵兵に一彈を浴びせるなり涙に咽んだ

◇

何たる小隊長の心よ!、何たる兵士の心情よ!そこには敵はなかつた。敵を背景に二人の人間の美しい心がたゞ光つてゐた。かくして吉村小隊は大淩河の一番渡河を完成、中島騎兵の先發を勵め遂に午後一時吉村旅團の大淩河渡渉を完成せしむるに至つたものである（二日錦州にて佐藤特派員發）

消防出初め式

鷄聲朗らかに

景氣恢復の大行進

足取り健やかな若人の姿

花柳界酒場のさんざめき

曝笑洪笑の渦巻き

呪はれた不況、不振の時代は昭和六年の彼方へと去つた、曉の鷄聲とゝもに、健康にして朗かな景氣への行進曲は奏でつゝある、街頭に動く若人の姿、久方ぶりの花柳界のさんざめき、各種娛樂場からの爆笑と哄笑の渦巻き、それは景氣恢復を象徴するものである、元旦から三日間市內の盛り場にあらはれた景氣、景氣のオーバラップ—

カフエー酒場

歡樂郷の賑ひ

遊客も去年に倍加す

一方カフエーの景氣は如何にとみれば元旦は二三の一流どころが休業しただけで、二日からは一齊に六十六軒の各カフエーが店をあけてゐるが、元旦午後四時頃からドット客が押し寄せて各カフエーとも非常な景氣を見せてゐる。成程を開くと一流カフエーは一日のあがり高二百五十圓をそれぐ突破してゐる、又最近の傾向としてあらはれたバー・リラ、カフエー入江、バー・ジプシイ、バー・ナナ、バー火の鳥などの各こぢんまりとした酒場乃至カフエーは平素のあがり高を突破して六十圓內外といふ話。何れも昨年と比較すればグツトふえてゐる。不夜の歡樂郷新町遊廓は元旦から三日迄に四二四人、二日は九二四人、三日は四四〇人で合せて正月三日間に一三八八人。昨年の一〇二〇人に比べて三六八人の増加で、そのあがり高も昨年の二倍に達しやうといふ景氣のよさ。愈々本格的になつたとみて差し支へないと樓主連ホクくものである

劇場常設館

何れも滿員

大入袋の景氣よさ

府民大衆の唯一の娛樂場、映畫、演劇の各小屋は昨年をはるかに凌駕するよい成績である。即ち南佐夫を解説者に迎へた京樂館、ウォレス、ビアリの猫眼石多數人の登場を特別上映した中央館、南記館は元旦から六日迄は興行は正午開場で滿員、夜は午後六時〆切るといふ有樣で、この整理のためにわざく出張するといふ有樣、大入袋のことゝも中央館は元旦一圓、二日は一圓五十錢、三日は三圓五十錢といふ久方振りの記錄をつくつてゐる。大正館、團成社、京龍館ともに滿員で詰入れ時の賑ひに浸つてゐる。一方朝日座、浪花館も各々そのすぢの見物を集めて今年の華やかなスタートをきつた

在滿同胞後援會祈願　在滿同胞後援會では三日午前十一時朝鮮神宮において祈念式を擧行し二百餘名の官民集つて出征皇軍の武運長久と滿蒙權益の確保を祈念した

喜樂館（四日から）▲『白い姉』前後十六卷、小杉勇、夏川靜江、三桝豐その他▲『心の抱擁』新渡英助、市川小文治、伏見直江その他

京龍館（四日から三日間）▲『鞍馬天狗』嵐寛壽郎、原駒子主演▲『リーブライアン嬢主演▲『紅唇なやまし』青木繁、櫻高雪主演

奈良縣下で

バス電車と衝突

死傷者十二名を出す

【奈良電報】三日午前十一時四十分西大寺發奈良行電車千五號、千七號連結急行車が奈良縣生駒郡都跡村大軌四號踏切に差掛つた際、奈良自動車會社所有奈良一五八九號運轉手村田福太郎、助手増谷八重子が奈良より寶來に向け乘客を滿載して横切らんとして衝突、車體は大破し運轉手、助手、乘客八名即死、重傷者四名を出した

江の島で

バス轉落

十數名負傷

【鎌倉電報】二日午後五時十五分頃鎌倉郡大船日本自動車株式會社江ノ島大船間のバスを運轉手出口良平（二三）が江ノ島辨天初詣で客十五、六名を乘せ、同地腰越村街道疾走中、運轉を誤つて一丈餘の斷崖から轉落し乘客十數名重輕傷を負つた、右の中横濱市磯子區今井武夫（三〇）東京神田區松崎長吉（二〇）の兩名は生命危篤、千葉縣香取郡安崎琴（二〇）平塚町佐野春吉（二四）ロトヨ（一七）は重傷を負ひそれぐ鎌倉町林木醫大塚病院外藤澤町山口病院に收容手當中である

城大豫科優勝す

全國高校氷上競技

【盛岡電報】全國高等學校氷上競技選手權大會二日目は引續き高松リンクで擧行されたが京城帝大豫科はスピード及びホッケーの選手揃ひで斷然優勝しフイギュアは二高クラブが選手權を獲得して大會の幕を閉じた成績左の如くである

五千メートル

一着　李（松本）十三分九秒四

二着　梅津（京城）十三分十秒二

三着　大津（二高クラブ）十三分二十三秒八

二千メートルリレー

一着　京城（山隅、李、川西、梅津）四分三秒六

二着　二高クラブ　四分十秒七

三着　松本高校　四分十六秒七

各學校得點

京城　三十八點三分の二

松本　二十二點三分の二

二高クラブ　十三點三分の二

フイギュア

長谷川（學習院）二點

八木（二高）七點

高野（二高）八點

岡田（北大豫科）十二點

梅津（城大豫科）十三點

陽田（北大豫科）十九點

山隅（城大豫科）二十四點

村田（城大豫科）二十六點

アイスホッケー

一回戰　松本四—二二高　京城三—〇松本

二回戰　北大豫科七—〇松本

決勝戰　京城二、二、一　北大一、〇、一

東大と城大

全國學生氷上大會始まる

ホッケーで

【盛岡三日電報】第七回全國學生氷上競技選手權大會は三日午前九時より盛岡市外高松池リンクで華やかな入場式を擧行午前十時より競技を開始したがこの日の京城帝大對東大戰は一對〇、二對〇で京城帝大が優勢を示してゐたが後半に入つた時コンディション非常に惡くこれを中止したが明四日は再び試合を行ふこととなつた

ラグビー

京師强し

【大阪電報】第十四回全國中等學校ラグビー大會は三日より甲子園南運動場において開かれ、一回戰において京城師範は三九對六を以つて豐北一中を破つた

朝博丸遭難

【釜山電話】北九州商船會社の釜山博多間の連絡船朝博丸（一千六百五十噸）は三日午後七時五十分釜山へ向ふ航海中、對馬の鰐浦沖合の海中で機關部へ浸水し危險に瀕したので、停船投錨し、急を報じたので、門司より帝國サルベージの救助船が急航し、應急修理の後乘客を巖原へ避難させて門司へ曳航した、浸水の原因は目下不明、取調べ中

獨逸廢帝重態

【ドールン（和蘭）三日發電】ドールンに隱棲中の獨逸廢帝は先頃天好の暖い日戶外で日課の薪割りをした爲風邪をひき込み相當重態である何分老齢とて憂慮されてゐる

永登浦火事

子供遂に燒死

二日午後八時十五分府外永登浦邑四〇五黄俊性方から出火し一棟五戶を全燒して同九時鎭火したが同家の長男永員（三）は火廻りが早くて救出すことができず無殘にも燒死した損害約三百五十圓原因は溫突の焚火の不始末から

渡邊局長

重なるお目出度

遞信局長のお目出度、鷄鳴曉を報じて昭和七年の幕が切つて落されんとする元旦に玉のやうな男兒を出産した。四日朝登廳して一同から祝辭を浴びせられた渡邊局長さすがに耳を赤くして滿悦の態であつた

正月早々

授恩洞に强盜

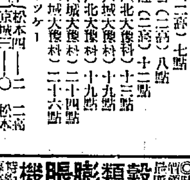
曖昧な節がある

虚僞の申告らしい

屠蘇氣分も抜けやらぬ松の內の三日午後八時四十分頃府內授恩洞一二四番地賈商李鍾賢（三三）方へ洋服姿の紳士風の二人組押入り、店員鄭在衡に拳銃樣のものを突き付け有金殘らず出せと脅し文句を並べて脅迫し現金七十圓五十錢を强奪逃走したとの急報に接し、所轄鍾路署では非常召集をなし非常線を張つて犯人逮捕に努める一方、被害者である店員と店主を本署に召喚取調べを進めてゐるが、四日朝に到り當時の模樣があいまいになり、或は虚僞の申告ではあるまいかと峻烈な取調べを進め、或は店員が主人の金を使ひ込み大膽にも虚僞の申告をなしたものではないかと見られてゐる所轄鍾路署梅田司法主任は四日早朝からオートバイを飛ばして被害者方の臨檢を行つた

公告　下記兩會社ハ昭和七年一月十日ヲ以テ合併シ同時ニ解散致候ニ付商法ノ規定ニ依リ此段公告ス　昭和七年一月四日　仁川米豆取引所　株式會社京城株式現物取引市場

驚くべき最新發明の膨脹機　穀類膨脹機　○○米、○○合の穀物が一斗に膨脹す　キビ、粟等十五倍以上になる　時間三分間で費用僅かに五厘　製造元　石田商事株式會社



信仰と修養　一、キリスト教の諸書籍を準備して御待ち申して居ります　一、本會へ御入會の方に雜誌『新生』を御送りいたします　本文館の目錄は御申越し次第御送りいたします　京城新生會

喪中年賀の禮を缺く　清津　土木建築請負業　平山銀三郎　電話二〇七番

賀正

渡邊商店　咸北鍾城　電話七番

鍾城郵便局　職員一同　咸北鍾城

託摩富士松　咸北鍾城

鍾城普通學校　職員一同　咸北鍾城公立

鍾城郡廳　職員一同　咸北

岩崎庫四郎　咸北鏡城

吉田農園　咸北穩城郡永忠面

成川郡廳　平壤專賣支局成川出張所　成川警察署　成川金融組合　成川公立普通學校　成川煙草耕作組合　成川郡　成川面事務所　成川産業組合　成川郵便所　平壤地方法院成川出張所　成川森林保護區　成川公立尋常小學校　平壤專賣支局成川指定成川販賣所

朝鮮及滿洲

一月號　第二百九十號（一冊六十錢　半ケ年分三圓六十錢）

支那帝國主義が及せる日韓の關係……城大教授文學博士　今西龍

法律の使命に就きて……京城法專校長　膽松龍種

社會生活の淨化……前警視總監　高橋守雄

支那に於ける日本の權益と條約……城大教授法學博士　泉哲

滿洲問題の平和的解決策……法學士　高橋漢太郎

政變夜話……東京　城南隱士

最近支那經濟界の展觀……朝鮮銀行調査課長　澁谷禮治

滿蒙の事情を語る……歩兵中佐　金子定一

朝鮮の金鑛業……本誌記者

滿蒙の金・鐵・石炭……本誌記者

生命と健康……京城醫專校長醫學博士　佐藤剛藏　京城婦人病院長　工藤武城　京城醫院長　占部寬海

現代人として國際心を養へ……法學博士　新渡戶稻造

國際平和發達の歷史……英國總領事　マシー・ロイヅ

年頭雜感

滿洲事變と最後の決意……社長　釋尾東邦

犬養新內閣に與ふ（宇垣總督、內田總裁等の進退如何　犬養、高橋、中橋翁等の印象）

運命とは何ぞや……文學士　松本經青

偉人出現の法則……東洋大學教授　颺寬之

支那の笑話集……城大助教授　辛島驍

日鮮古代風習の共通……朝鮮總督府　今村鞆

支那の正月……本誌記者

朝鮮の正月……本誌記者

門松と注連繩の由來傳説……文學士　吉弘中山

門松の話……城大教授　秋葉隆

顔による運命判斷……東京　根本觀山

金輸出再禁止後の財界は何う動く……朝鮮殖産銀行頭取　有賀光豐　朝鮮銀行理事　森　三井物産京城支店長　住井

漢詩・和歌・俳句

歐洲のウインタースポーツ……京城帝大教授　中村兩造

朝鮮とスケート……城大豫科教授　藤井秋夫

朝鮮のスキーを語る……龍山鐵道局　福田登

講演行脚の記……東邦生

滿洲事變と國際聯盟理事會の經過……本誌記者

風聞駄語

猿と人間との關係……理學士　本間勇三

動物園の猿は斯うして暮らしてゐる……理學士　田島君治

エロ・帝都鳥瞰圖……東京　森凡

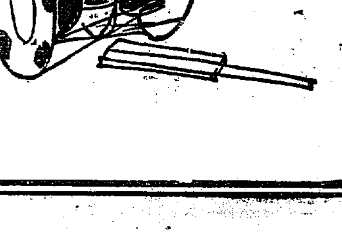
發行所　京城旭町（西小門外）　朝鮮及滿洲社　電話光化門一三〇〇番　振替京城一二六番

賛化病院　醫學博士　古城憲治　內科　小兒科　入院隨意　普通病室及傳染病室

大學病院　赤十字病院　指定　京城本町一　中村眼鏡店　電話本局二一一七番　振替京城三四六番

タバコのみの　歯磨スモカ

とうとうたらり　とうたらり　四日たらずで白くなる　スモカのしるし　ありがたや



煙草雜貨　新品藥店　定價十五錢

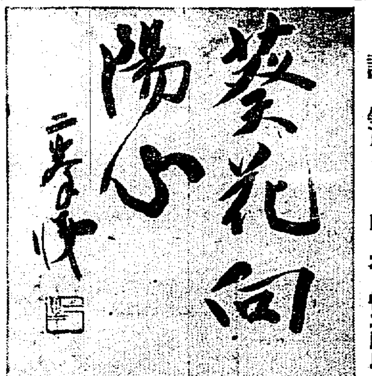
本年の金融界 益々難局に立たう
再び解禁は容易でない
第一銀行頭取 石井健吾

昭和六年は世界經濟の上に我等の豫知しなかつた事變が續々と起つて我が財界にも非常の變動があつた。上半期は引續く不況の爲に一般商工業は益々沈滯し財界は近年に見ざる低金利時代を出現し金融は極めて緩慢で、爲替も安定してゐたから對外貿易も比較的順調に推移し金額に於てこそ非常の減少を見たが輸出入均衡は前年に比し一段改善せられた。然るに下半期に入つてからの國際經濟は意外の出來事が頻出して

◇……**大變動** を見せた即ち六月廿一日米國大統領の聲明（モラトリアム提案）は世界經濟界に大刺戟を與へ所謂フーヴァ景氣なるものを現出したが、それも瞬く內に消え失せ七月十三日獨逸財界の一大危機發展を動機として世界經濟界は再び混亂を來し、更に九月廿一日に英國が終に金本位制を停止することゝなつて一大動搖を起した。偶々之と前後して我國としては滿蒙事變が突發した爲め、我が經濟界はこの內外の事變で少からぬショックを受け、英國に資金を投じてゐた向きは直ちに弗貨の買付を初めた。同時に我が國金輸出再禁止を見越しての弗買思惑も相次いで起つて輸入資金關係の爲の分と合すれば相當巨額に上つたやうである。このため若槻內閣は正金銀行をして前後三億餘萬圓の金貨現送を敢行せしめて金本位制の維持に努められたが、中途內閣不統一のため總辭職の已むなきに至つて犬養內閣之に代り直ちに金輸出

◇……**禁止と** 兌換停止とを斷行し、茲に我が國金融制度の基礎に大轉換を來したのである。斯くて今後爲替相場の不安定は其の新平價を以てすると舊平價を以てするとを問はず再び解禁を見るのは容易のことでは出來なくなつた。それは兎に角として今後の金融は何うなるかと云ふに、政府の政策や內外の事情によつて變化するから的確に豫斷は出來ないが金本位制停止を行つた新內閣は少くとも爲替の維持のために貸出す金融政策又は高金利政策は行はぬと思はれるから今後の金利は年末の如く騰貴することはないであらうし、又昨春に流出した正貨の一部は貿易其の他國際貸借の決濟にも流用せられ、また弗思惑資金も利喰して國內へ回還するものもあらうし、且爲替の低落により在來貨金も流動化する様にもならうから期末の如き極端なる逼迫は相當緩和せられるであらうと思ふ然しながら昭和七年度の豫算は大體若槻前內閣の歳出豫算を踏襲することであるから結局少くとも三億圓以上の公債は增發せられるであらうし、而かもその一部は民間引受けとせざるを得ないとせば前述の金融緩和にも著しい期待は持てないかも知れない

◇……**擴張も** 考慮せらるゝの之が對策として保證準備發行限度れてゐるとの話も聞くが、限外發行は常態の様になつて昨今の如く保證發行の四億近くも限外發行せられてゐるやうでは或は程度の保證準備の擴張はやむを得ぬことゝ思ふが、然し乍ら此の事とインフレーション政策とは全然別個の問題であつて、若し放漫なる通貨膨脹を行ふ時は物價は益々騰貴し市場には一層思惑を助長し爲替の變動は甚だしくなり國際貸借の取引は更に困難となり、國家にとりて非常の累を胎すことになるから是非とも此の健全なる通貨政策と共に爲替相場の變動をして出來得る限り少からしむる様最善の努力を講ぜられんことを望んで止まざる次第である。殊に最近海外の事情は一段と惡化し不況は益々深刻となつて居るのみならず世界各國は英國の金本位停止以來外國商品のダンピングに對し關稅政策をとり極力輸入の防壓に力めてゐるから我が國の輸出品も爲替の低落に因つてそれだけ利益を享受する事が出來るなどゝ漫然樂觀してゐることは禁物で、同時に物價騰貴によつて果して輸出が之れに伴ふや否やの懸念もあり、他面生產費の昂騰も考へねばならずそれこれ思ひ合せると我產業界は今後益々重大なる難局に立つものとして、一時の景氣に眩惑されずに飽くまでも緊張して用心深く依然として產業の統制合理化に意を用ひ能率の增進と經費の節約に努めねばならぬと思ふ



試筆 山本悌二郎氏

時局と對支貿易 排日は損
根絶は支那の爲
三井物產業務課長 守岡多仲

日支兩國は地理的に近接し、民俗風俗に類似點多く、彼我の交通は二千年の歷史を有して居る。兩國の物資は其の文化と共に或は商賈を通し或は直接に古くより交換されて、德川時代に鎖國政策を採つた際に於てすら日支間のみは御朱印船によつて貿易關係を繼續したのである。これ程密接な間柄であるのに明治四十一年辰丸事件に端を發して南支に排日が起り二十四年間に九回の『ボイコット』に遭遇した。然して之が度重なるに伴れて漸次範圍も

『**擴大し**』組織も根強くなり、手段も惡辣となり來つて居る。即ち當初は地方的であつたのが最近では支那本土は勿論南洋各地に波及し、又當初は時局に便乘した學生を中心としたものが最近では排日を職業とする團體を全國的に組織し總商會、工人學生等も之と步調を合せ國民政府の指揮たる黨部の指導の下に行はれる樣になつた、又當初は日本商人に對して直接行動を執つたものが、最近では日本品取扱支那商を迫害する間接的戰法に變り、單に日貨を抵制するのみならず日本人との一切の經濟關係を斷絕する事を目標として居る

滿蒙問題が政治的にも經濟的にも我國民の最大關心事である事は言ふ迄も無いが、若し貿易の立場から見れば『ボイコット』の克服と言ふ事も之と同樣に重大視せなければならぬ問題である。蓋し昭和五年の我對支輸出にみれば

關東州及滿洲向	一二二、三八九、五九〇圓
支那本土及香港向	二八〇、八九六、七一九圓
計	四〇三、一八六、三〇九圓

となつて居て、即ち支那本部及び香港は我輸出市場として關東州及び滿洲に二倍する重要性を持つて居るからである。又我國の輸出先としては北米合衆國が首位を占めて居るが、これは生絲といふ

『**特殊の**』商品を消化する爲であつて、若し假りに生絲を除外して觀察すれば輸出總額十億五千三百萬圓の內支那本部及び香港は約二割八分を占め北米合衆國は約一割を占むるに過ぎず。即ち我綿布を始め雜品の輸出に於ては支那が最大の顧客であることを知り得る、更に國際貿易の大勢から觀察するに各國とも關稅障壁を競爭的に高め國內市場を防禦する一面、經濟發達の幼稚な方面に向つて市場爭奪に血眼になつてゐる。阿弗利加、南米、近東等は即ちこの舞台に選ばれたのであるが、何を云つても此等の地方は人口稀薄のため忽ち行詰らざるを得ない、其の必然の結果として四億の大衆を抱擁する支那に列國貿易戰の中心が轉回して來る事は疑ふ可からざる所である

然るに支那においては小學教育において排日思想を鼓吹し、抗日會の各支部を全國に設置し、『懲辦奸民條例』とか『救國基金徵收使用條例』と言ふが如き規則を制定して日支兩國間に何等か困難な問題が起れば直に日本經濟制裁として經濟絕交を斷行すると云ふ狀態である、今回の滿洲事變を原因とした排日も燎原の火の如く支那全土を掩ひ六年十月及び一月の對支輸出（關東州及び滿洲を除く）は若し排貨が無く例年八月と同樣の趨勢を續けたものとすれば二千九百四十二萬圓を豫想されて居たのに、實際に於ては千四百四十六萬圓となり即ち六割四分の激減を示して居る。之を地方別にすれば

	十月	十一月
北部支那	三〇%減	六五%減
中部支那	五四%同	七六%同
南部支那	九〇%同	九七%同
香港	七二%同	七九%同

となつて居る

『**排日の**』影響は貿易の上のみではない、在支日本人は長年月かゝつて築き上げた地盤を捨てゝ長江上流地方の如きは全部引揚げ、その他の各地に於ても僅に海軍の保護の下に踏止つて居ると云ふ有樣である。又海運界も非常な打擊を受けて、海員協會の調査では若し排日が一ケ年繼續するとせば約五千萬圓近くの損害であると見積つてゐる。支那においては、經濟絕交の結果日本が非常に困り遂には我を屈して支那の主張に聽從するのであらうと夢想してゐる。如何にも通商の杜絕により我財界が迷惑するのは事實であるが、然し貿易上の利害は決して一方的のものではない我對支輸出の多くは織物、絲糖、石炭、小麥粉、水產物、機械等の如く生活必需品に非ざれば工業必需品である關係上、此等の商品が輸出困難により騰貴すれば支那の消費者は多大の損害を蒙り、又、取扱商人も商賈杜絕、賣掛金回收難、滯貨の爲の資金固定等により意外の損失を見、延いて財界一般を不安に導かぬとも限らない。故に日本が困ると同樣に支那自身も困る筈である。現に日支貿易は前後九回の『ボイコット』に遭遇したにも拘らず一時的消長はあつたとしても漸次增加の傾向を辿つて居るのであつて、これは明かに過去の排日の

『**失敗を**』物語ると共に反面から見れば又日支兩國の經濟關係が如何に密接不離の立場にあるかを證するものといはねばならぬ。又今次の經濟絕交に於ても十二月に入つてからは上海、漢口等中心市場に於て早くも倦怠の色が見え滯貨初め困窮の破產續出の兆候が現れ、年末を控て段々恐慌化して來るのではないかと懸念されて居る。特に漢口方面に於ては既に反日會に强壓を加へ日貨通商の復活を企圖しつゝあり、又、上海方面においても排日緩和を要望する聲は實業界の有力筋の間に澎湃として起りつゝあつて、國民政府を支持する浙江財閥が公債暴落の痛手を受けて居る爲めこれが救濟策としても經濟絕交を緩和せねばならぬ窮境があると報ぜられてゐる。かくの如く排日ボイコットが現時の經濟社會の實情に悖り、支那自身にとつても不利益であるのは明かであつて、彼等は一部野心家の煽動と職業的排日家の跋扈の爲めに盲動してゐるのである支那政府が經濟絕交を以て愛國心の發露によるものとの辭柄を構へこれを默認するのみならず暗に奬勵する態度を採り、又政府の使嗾たる黨部が無責任の立場から排日を指導するが如きは國際信義上許すべからざることであるのみならず、明かに日支通商條約を蹂躙するものである。これに對して世界平和の擁護者を以て任ずる國際聯盟を始め

『**米國等**』が其の不法行爲に目を反らし、耳を掩うて益々暴民の徒を增長せしめて居るのは奇怪至極と謂はねばならぬ、又私的團體に過ぎぬ抗日會などが恣に一般市民の營業の自由を奪ひ住居の自由を侵し、商品を抑留沒收し、罰金を徵收し、甚しきに至つては生命財產を脅かすと云ふが如き實情は支那が全く無政府狀態である事を暴露するものであつて、此の點に就ても亦嚴正なる世界の公論に訴へ我國としては適當の自衞策を講じなければならぬ。苟も近代國家相互の間では如何なる要求も一切責任ある政府を通じて折衝すべきが常道であつて、かくの如き場合に國民が熱狂し國內的のみならず對外的に兇暴なる直接行動を採り在留外人の生命財產を脅かす事を慣用手段とするに至つては斷じて許し難い。現在に於てこそ排日の對象は日本に限られて居るけれども、若し列國が之を容認し其の目的を多少にても達せしめるやうな事が有れば、與ひの濫する處排日は變じて一般的の排外運動に轉化せぬとも限らない、此の點は各國とも特に考慮を要し置く必要があらう。茲に新歲を迎へて吾人は東洋の平和と國際正義の確立に對し熟慮を新にするが故に、常に之れが障碍をなして居る支那の組織的な排日が速かに根絕せられむ事を特に念じて已まぬ次第である。

試筆 湯淺倉平氏

新春に當りて
貯金頭取 森悟一

昨年は未曾有の多事多難な年であつた。即ち昭和五年より持越された財界の不況に伴ひ上期の世界的低金利、金の國際的移動激化獨逸財界危機等に之が對策として六月廿日聲明せられたるフーヴァ氏の提案に端を發せる所謂フーヴァ景氣、九月廿一日金輸出の禁止を爲されたる英國金本位の停止、之に伴ふ國際的貨幣制度上の動搖並に各國の高金利政策更に之に伴ふ產業界惡化、國際商品の價格低落各國間の關稅戰、加ふるに我國に於ては滿蒙事件、年末の政變、金再禁止等誠に多數の事變を經驗したものである、然し一方不況は愈々其深刻の度を增し將來に對する不安は依然として除くべからざるものがある狀態である。

朝鮮に於ける經濟界は內地に追從的立場にあるを以て經濟界諸事象に伴ふ影響も、亦之に對する前後處置も內地に從て行はれ昨年上期の低金利並に下期の金融硬化に伴ふ利下及利上も追隨實施され當に現在に於ては遲れ走せ乍らも內地に從て財界經濟界の趨勢に順應して居る現狀である。偖前述の如く世界經濟界は昭和五年次いで六年と不況のどん底に呻吟したが今年は愈々恒久的經濟機構の安定に邁進努力すべき秋であり來るべき繁榮への準備時代に當るものと思考するのである。政友會內閣が產業經濟の振興、貿易の改善を目的として昨年十二月十四日を以て組閣と同時に金輸出禁止を斷行せることは周知の處であるが產業の振興、富の增蓄は如何なる經濟機構に於ても富國の第一要素であり吾人の努むべき正道である更めて云ふ迄もなく吾人は新春を當に心に刻し一國の繁榮は先づ一國民からの覺悟を以て財力の蓄富、產業の振興に力を努めて富國の實を擧ぐべく現下經濟界の不況の折に際し財界の恢復伸展に深く邁進せねばならぬ

由來朝鮮は經濟的方面に關して幾多の現代的金融機關其他施設の發達遲れ從て民衆も經濟觀念、經濟的自覺に乏しく漸く最近完備を見るに至つて刺戟せられ覺醒しつゝある現狀ではあるが未だ過渡期たるを脫れない、然し昨年あたりの世界的不況多事多難の影響は著しく北鮮心に拍車をかけたことゝ考へられるのである、輓鮮

貯蓄銀行は斯る經濟界不振の折に當つて朝鮮に於ける唯一の貯蓄銀行として確固たる存在を示し民衆に奮起覺醒しつゝある朝鮮の人々を經濟的向上の正道に指導啓蒙すべく一段の努力を自覺して居る次第であるが朝鮮に於ける貯蓄狀態を見るとき昭和六年六月末現在に付當行預金を通じて內鮮人別に於て

	內地人	朝鮮人	計	割合 內地人	割合 朝鮮人
口數	[illegible]	[illegible]	[illegible]	五〇%	五〇%
金額	[illegible]	[illegible]	[illegible]	八〇%	二〇%

にして口數において內鮮人各五割を占むるも金額においては內地人八割朝鮮人二割の比を示してゐる然るに昭和五年末における全鮮の人口に就て考察するに內地人は五十萬人、朝鮮人は千九百六十八萬人にしてこの割合は二分對九割八分に相當してをりこれによつて見るに九割八分の多數を占むる朝鮮人中預金は貯蓄銀行預金口數において僅か二割に過ぎざる現狀にて此二千萬朝鮮人大衆に對する貯蓄思想の涵養、普及の餘地は洋々たるものあり國民貯蓄の專門機關として當行使命の重大且前途の遼遠なるを痛感する次第である。云ふ迄もなく如何に此の面に努力して奬勵するも之等民衆に財力の伴はざる間貯蓄の實績を擧ぐることは到底望み得ざることであるが民衆の財力を豐富にし貯蓄の實行力を興進せしむべく先づ其障害と認めらるゝ陋習を打破することが目下の急務であり來るべき繁榮への準備の第一步であらねばならない、然して朝鮮民衆の財力の貧弱なる原因として一般に擧げられて居るものは

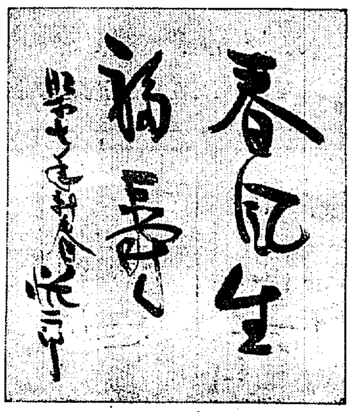
一、生產經濟の幼稚且貧弱なること

二、朝鮮人の經濟思想幼稚且自覺なきこと

三、生活上無駄の多きこと

等にして之等は當然匡正され朝鮮財界の隆昌致富平和に邁進されねばならないが之に就ては先づ現在銀行が努められつゝある政府の御方針達成と財界識者不斷の御援力に俟つ外ないのである。殊に第二、第三の缺點に就ては特に朝鮮人識者の共鳴御努力に依らねば其效果期し難きこと明白にして各位の御盡力を希望するものであるが右に關して貯蓄銀行は勿論小生としても大抱負の下に朝鮮人家族制度及風俗習慣の改善に及ばず乍ら意を用ひ之等大衆の財力發展に力を致して居る現狀である。

斯くて昭和七年新春を迎ふるに當り、來るべき繁榮期の準備時代として更に現時の不況打開に先づ朝鮮からの理想の下に平和富裕繁榮の理想鄉建設に向つて努力邁進すべく大方識者の御共鳴を翹望する次第である。



試筆 植原悅二郎氏

賀正

慶北安東 日浦廣治

慶尚北道 聞慶官吏一同

慶北慶山酒造株式會社 社長 足代守民

慶北慶山 煙草耕作組合

慶北高靈郡廳員一同

慶北高靈 公立普通學校職員一同

慶北慶州 郡廳職員一同

慶北慶山 官公吏一同

慶北慶州 井上茂

慶北慶州 邑長 山口熹澄

慶北倭館 宮本庸三

慶北軍威 酒造株式會社

慶北安東邑 西居旅館

慶北安東醫院

慶北高靈 久野逸三

慶北榮州 南部金融組合

慶北榮州郵便所 栗野俊雄

慶北咸昌 趙範錫

慶北玄風 二木良延

大邱日本生命出張所長 沈基澤

大邱府市場町 姜致雲

大邱府南城町 申泰文乾材藥局

大邱信明女學校長 方鮮禮

慶尚北道穀物檢査所 北澤茂

大邱府上町 獨立軒寫眞館

大邱驛前 慶尚自動車部

金泉小學校 職員一同

釜山府本町一 立石良雄 電話長四〇〇七番

釜山 市石原醑

釜山府會議員 桐岡槌雄 釜山府水晶町

朝鮮[illegible]株式會社釜山支店 支店長 白垣善四郎

株式會社 山利商店 釜山府大倉町 電話長一九二番 一八一四番

[illegible]商會 梶川吉彥 釜山府大倉町二丁目 電話一一七九番

佐藤商會釜山支店 釜山府榮町三丁目 電話二三七二番

荒井旅館 釜山府榮町 電話長三七四六番

釜山府會議員 田口愛治 釜山府榮町一丁目

釜山府會議員 井谷義三郎 釜山府大倉町

東萊懇談會

釜山府會副議長 坂田文吉

合資會社 中島商店 釜山出張所 釜山府大廳町二丁目 電話長六〇二番 九三六番

八幡行策 釜山府富民町二丁目 電話長一七三四番

合資會社 萩野商店 釜山本町三丁目 電話長三〇番 二四〇〇番

銅鐵商 英友次郎商店 釜山府大倉町二丁目 電話長四六二番 六三二番

星野政太郎 釜山府大倉町 電話長二八一番

松岡正宗釀造元 松岡甚太 釜山府水晶町 電話五五三番

大島芳輔 釜山府南濱町二丁目 電話長一九〇〇番

釜山商工會議所議員 富原研二 釜山府大廳町三丁目

福榮商店 釜山府榮町二丁目 電話長一〇八一番 七〇七番 八九八番

東萊溫泉 溫泉旅館 延壽館 電話東萊二二番

東萊溫泉 溫泉旅館 鳴戸旅館 電話東萊六番

釜山商工會議所議員 濱田惟恕 釜山榮町

慶尚南道牛疫血清製造所長 堀崎千晴

朝鮮瓦斯電氣株式會社 釜山府

釜山商工會議所 會頭 香椎源太郎

朝鮮紡織株式會社 釜山鎭

釜山府土城町二丁目 土木建築請負業 渡邊時知 電話六二三番

江陵酒造株式會社

江原道注文津 江原道沿岸販賣組合 代表者 西野爲作

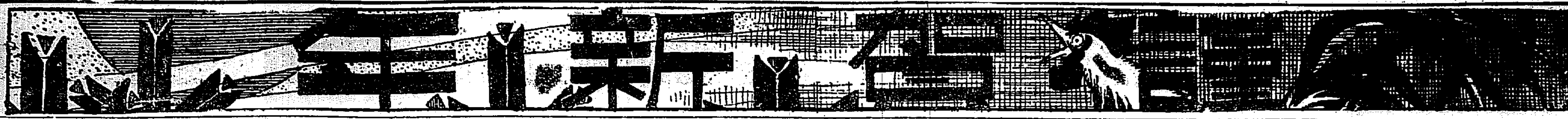
株式會社 本嘉納商店 釜山府本町三丁目 釜山支店

釜山陶磁器商組合

釜山府大廳町 釜山穀物商組合

慶尚南道廳 食堂員一同

釜山府 本店 迫間房太郎



水原郵便局長 申鉉益

水原郵便局長 高田利橘

水原邑會議員 車載潤

水原邑會議員 近藤泰吉

水原 香山弘 電話一一四番

水原麯子製造組合 組合長 韓弼鎬 理事 藤井安一 外職員一同

水原驛前 巴商會洋服部 吉浦英信

水原驛前 自轉車 鬼追商會 電話一七七番

東山農事株式會社水原支店 徳弘國太郎

水原邑會議員 洪思先

水原本町 山崎自轉車店

水原驛前 磯崎商店 電話一〇二番

水原邑會議員 李完善

水原邑會議員 忽那龜千代

水原 井川好太郎 電話二一四番

龍仁郡金良場 大藤久

水原驛前 華城自動車株式會社 電話一四七番

水原城內 富司亨 電話一四番

京城組合銀行

京城銀行集會所倶樂部 會社團

東洋拓殖株式會社

京城電氣株式會社

三井物産株式會社京城支店

三菱商事株式會社京城支店

朝鮮鐵道株式會社

朝鮮郵船株式會社

金剛山電氣株式會社

朝鮮火災海上保險株式會社

株式會社京城株式現物取引市場

不二興業株式會社

朝鮮土地改良株式會社

水原城內南水里 朝鮮 中華 西洋 料理 白水館 電話一七八番

水原驛前 料亭 雅 麺家 平野ツキ 電話三三四番

水原本町 不二屋百貨店 店主 谷口慶家 電話一三七番

漢城銀行水原支店 支店長 趙銘夏

龍仁郡金良場 中村貞夫

水原 村岡岩十郎

龍仁郡金良場 井上龜壽

水原城內 築池洋服店

水原邑內 興産株式會社

水原本町 井上寫眞館 青木旅館 電話五七番

スキーのシーズンがまいりました 京城運動具商會 藤野敏夫 京城府南大門通四丁目六七

支那料理 雅叙園

支那料理 金谷園

京城府明治町二丁目 興業無盡株式會社 電話本局三三八二番

京城穀物商組合延市場

(組合員イロハ順)

(不) 今村伊三郎 電話本局五二二番

(天) 朝鮮精米株式會社 電話光化門三四一番

(大) 李逸雨 電話光化門三三九番

(ト) 掛谷千仭 電話本局一四一番

(か) 曹秉學 電話光化門二二三番

(太) 野部信太郎 電話本局一五六八番

(マ) 松浦齊生 電話本局三三五番

(H) 洪泰錫 電話本局四三七番

(久) 齋藤久太郎 電話本局三三二一番

(工) 崔學載 電話光化門五九〇番

(光) 金光準 電話本局四五二二番

株式會社 共益社 電話本局四五九二番

三井物産京城支店 電話本局四〇三〇番

京城府漢江通六番地 龍山工作株式會社 電話龍山四六八 六二八番

水原本町 壹興園 電話一六番

陸軍將校部京義道指定 水原本町 山陽旅館 館主 田代友京 電話二二番

水原門外 李吉泰

水原邑南昌里 李昌鎔齒科醫院

水原城內平和倶樂部 趙印海

水原商會 車泰益 電話一二二番

ライオン歯磨

今年も元氣で 樂しく朗かに

賀正

幼い時から ライオン齒磨

本舗 株式會社 小林商店 東京・大阪・名古屋

芳澤大使歸朝の途に就く

【パリ】日支事變當時の國際聯盟理事會に出席した芳澤大使も愈々其功に報いらるゝ時期が到來し近く歸朝して外務大臣として內閣に列することゝなつた（巴里）（寫眞は過般巴里に於ける聯盟理事會最後の閉會後退出際に寫した際の近影である）

軍縮會議展望（上）
本春二月の會議は有史以來の大會議

外務省條約局第三課長　佐藤庄四郎

一、有史以來の大會議

國際聯盟がその存立の運命を賭して開催する大軍縮會議はいよいよ昭和七年二月二日に迫つた。參加國は世界のあらゆる國を網羅し總勢六十ヶ國に達し、こゝに有史以來の大會議が展開されることゝなつた。會議の期間も恐らく六ヶ月以上にも及ぶことゝ豫想される。日本もこの會議には松平駐英大使以下多數の代表隨員を派遣することに決定した。今回の會議には又『ソヴエト・ロシア』『トルコ』その他從來國際會議に餘り顏を出したことのない國も參加する筈であるから、會議も從つて種々面白い場面を作り出すことゝ想像され、とにかく千九百三十二年の『メイン・エヴエント』として世界の眼は全くこゝに集められるものと豫想されるのである。

二、聯盟軍縮の由來

抑も國際聯盟が今回の軍縮會議を開催するに至つたのは、聯盟としては實にその成立以來の宿志を遂げたわけで、聯盟の憲法ともいふべき聯盟規約には第八條に

一、聯盟國は平和維持の爲には其の軍備を國の安全及國際義務を協同動作を以てする強制に支障なき最低限度迄縮少するの必要あることを承認す

一、聯盟理事會は各國政府の審議及決定に資する爲各國の地理的地位及諸般の事情を參酌して軍備縮少に關する案を作成すべし

と規定して居る。要するに軍縮は聯盟各國の規約の條章により負擔する義務であつて且聯盟理事會に課せられた重要なる任務たるものである。若し聯盟にしてこの重大な使命たる軍縮事業に失敗するやうなことがあつたら、聯盟成立の理由の大半は沒却され、聯盟は自ら崩壞の途を辿るの外はない。聯盟としては實に試金石ともいふべき重大な時局に直面してゐるわけである。

三、軍縮事業の停頓

然らば聯盟が何ゆゑこの重大な使命を成立以來十二年間も放擲して顧みなかつたかといふにこれには種々の事情があつた。千九百十九年聯盟成立の當初には、歐洲の戰亂未だ全く收まらず『バルカン』方面は依然として戰亂の巷となつて居た。西歐でも各國は戰後の經濟に壓殺され國力の充實にかゝりつゝあつたし、また依然人心は不安焦躁の氣分が去らなかつたので、この空氣の中で各國に戰時急激に膨脹した軍備の縮少をもとむるなどは、殆んど思ひもよらぬことであつた。また千九百二十一年には米國大統領の提唱により『ワシントン』に海軍制限會議が開かれ、世界の視聽は『ワシントン』にあつまつた。聯盟では一應この會議の結果を待つておもむろに後圖を策するの外なきにいたつたのはけだしやむを得ざることであつた。殊にこの會議の異常なる成功は世界の輿論に歡喜と滿足とを與へ、人心は恰も軍縮事業が一段落を告げたかの如く考へた。聯盟としてもこの輿論の倦怠を押切つてこの難事業に手を染めることに躊躇したのである。結局千九百二十六年までは聯盟の軍縮事業はいはゆる机上の空論の域を脱せず、甚しく興味を缺いて居た樣に見受けられる。同年ドイツが聯盟に加入し軍縮促進の氣運漸く濃厚となり、米國も聯盟に協力するの態度を示し、こゝに聯盟の軍縮研究が俄然現實味を帶びることゝなつたのである。

四、軍縮準備委員會

軍縮準備委員會は初め聯盟理事國たる九國の外獨、米等の九國合計十八國を以て組織したのであるが、後漸次增加して參加國の數三十二ヶ國に達した。委員會の任務は軍縮本會議の開催に必要なる一切の準備をなすことにあつたが實際は初めは理事會から次の樣な審議項目を提げられて居る。

（イ）軍備とは何ぞや
（ロ）軍備の縮少制限とは何ぞや
（ハ）各國の軍備を比較すべき標準如何
（ニ）攻勢的軍備と守勢的軍備とを區別し得るか
（ホ）各國軍備の比率決定の原則如何
（ヘ）民用航空機と軍用航空機とを區別し得るや。民用航空機及商船の軍事的價値如何
（ト）一般的軍備縮少と地方的軍備縮少との關係如何
（チ）軍事報道の交換及び軍事監督制度の利害
（リ）毒瓦斯及び化學戰

この審議項目は一見頗る抽象的なもので、果して斯の如き研究をして何程の效果ありや頗る疑問であつて、理事會で決定したときもすでに相當批難があつた。殊に英國理事の反對は頑強であつた。果して第一回の準備委員會（大正十五年五月）で一應討議を遂げたが議論百出して決せず、更に軍事小委員會及び經濟小委員會を任命して、分擔して細目の審査に當らしめたが、各國代表は自國の主張を固執して讓らず、殆んど半歲に亙つて徒らに數百回の會議を重ねたのみであつた。特に軍事小委員會では日、英、米等の理想派と佛、白等の現實派との主張の相違が漸く顯はれて來た。又小委員會では各問題につき多數決で事を決する方法を執つた爲、たとへば海軍問題について日、英、米、獨等の強國一致の主張も佛、白その他の歐洲諸國の反對の爲、僅か一二票の差で敗れ去る樣な奇觀を呈した。この議決方法は第二回の準備委員會の本會議で改められ、多數意見と少數意見とを併せて報告書に記載することゝなつたが、その結果報告書は尨大なものと化し殆然一個の軍事教科書の如きものとなつた。

五、英佛兩代表の條約草案提出

この形勢を見た英國代表『セシル』卿は昭和二年三月の第三回軍縮準備委員會の劈頭、一の軍縮條約草案を提出して委員會に一大衝動を與へた。『セシル』卿がかく[illegible]として從來の行惱りを棄て、殊に軍縮準備委員會中最苦心の結晶たる、軍縮の根本原則の研究を無視する樣な提案をなした理由が奈邊に在るかを特察するに、恐らく佛國その他一味の歐洲大陸小國が依然として理論に執着して實際的方面を忘れたのに愛想を盡かしたことゝ、他方當時米國の提唱に依る日、英、米の三國の海軍縮少會議が開催される形勢にあつたので、聯盟の面目よりするもこの際局面轉回の途を講じて、世界輿論に對する聯盟の名聲を保持せんとしたのであらう。この英國がはの擧措は聯盟軍縮事業を理論より現實に引卸したもので、こゝに初めて解決への一歩を進めたものである。

右英國の條約案提出に刺戟され、佛國代表の『ポール・ボンクール』氏より一の條約對案が持出され、準備委員會はこの二案を基礎として審議を進めることゝなつたのである。（つゞく）

農業救濟

帝國農會々長　子爵　牧野忠篤

不肖此度帝國農會々長に選任せられ、年頭に當りて蕪辭の一端を披瀝するを得るは寔に欣快とする所である。

顧みれば昭和六年は我が國、社會、經濟、政治の全面に亙り實に多端な年であつた。一昨年來急激に進展した世界の經濟恐慌は益々深刻の度を加へ、遂には獨乙戰債問題、英國の金輸出再禁止問題等世界の耳目を聳動する大事件が突發し、人心の不安動搖は其極に達した。我國に於ても物價は依然として低落の步を止めず、貿易は停滯し、失業者は續出し、遂に年末に至つては、此の不況に拘らず金融の梗塞を原因とする金利の昂騰を招來し

◇…產業界の前途

更に一段の暗影を加へた。のみならず內外の諸問題は幾多の危機を孕み、國家の前途深憂に堪へないものがある。

顧つて我が農業界の情勢を通觀するに農產物の價格は依然低落を續けて止まる所を知らず、農村の購入品はその下落率比較的低く、農家の負擔する租稅公課は輕減さるゝこと少く、負債の重壓は益々加はり、農家の經濟生活は全く均衡を失ひ、窮乏の極に達した。その結果、小作爭議は激增し、租稅公課の滯納、小學校教員俸給不拂、負債の元利不拂、農家の破產等忌まはしき事態を發生し、今にしてこれが對策を講ぜずんば、農村、延いては國家の前途憂心すべきものあるを痛感せしむるに至つた。

しかれども今日農村不況の深刻なる決して二、三の單能的政策の遂行によつて救濟され得るものではない。故に吾人は

◇…官民一致

協力し、途ある所に途を求めて倦まざるを要すと信ずるものであるが、事自ら緩急あり、輕重自らあり就中重要なる左記事項の實現に努力せんと欲するものである

一、農產物價格維持　米價問題に關しては勿論米穀法の整備其他に努力すると共に常に米價の變動に注目し、米の買上、買換等機宜を得しむること、この變態的經濟事情に於ては特に重要なるが故に、良く政府の活動を監視し鞭撻を期せねばならぬ。繭價に關しては本年も亦農民の統制ある生產と、販賣とを希望し諸他の農產物に關しても、販賣の統制及國の內外における販路の擴張を期待する。のみならず、世界關稅戰爭の渦中にあつて、國內農產物價格維持のため、重要農產物に對する關稅の新設乃至增徵を必要とする

一、農民の負擔輕減　農民の租稅公課が過重なるは周知の事實であり、收入の著しく減少せる今日、一層その重荷は痛感せらるゝに至つた。中央及地方財政の徹底的縮小によつて此の農民の負擔輕減を所期せねばならぬ。又農民の負債はその額五十億を算し、利率又高きがために、農家はその支拂に窮し、土地を賣ひ、家を失ひ、全く路頭に迷ふものをさへ生ずるに至つた。此の高利債を借り換へ所謂負債整理を大規模に決行するは現時の急務である

以上の外、或は土地問題特に自作農創設維持の問題、小作問題、肥料問題、農業團體等、重要問題の山積するを見るが、要は適切なる政策と農民の自覺とにより

◇…農家經濟の安定

を期するにある。而も現下一般の狀勢は世界的にも亦國內的にも何等景氣好轉の曙光を示すものなく近き將來に於て農村の不況が打開さるゝの見通しがつかない。然し乍ら既に述べた如く我國は今や非常容易ならざる秋にあるのであるから、農家はその地位の重要なるに鑑み、堅忍よくこの難局の打開に猛進せねばならぬ。余輩又此の目的に副ふべく微力を盡すを辭せぬものである。大方の御指導と御援助を切望して已まぬ次第である

既成政治家の僞瞞振り
協力內閣と二大政黨

代議士　法學博士　清瀨一郎

一　昨年

末突發した政變は私にとつては不可解であり不愉快である。西園寺公の所謂憲政の常道によつて、政權は民政黨內閣から政友會內閣へ移行したが、そのいはゆる二大政黨なるものが、私をして言はしむれば僞瞞以外の何ものでもない、二大政黨は各々の主張が異なる政策を持して、夫々國策を爭ひ、甲黨がその敵とする政策を以て政治を行ひ、難局に遭遇し政策の行詰りを感じた場合、反對黨の政策を以てその難局に處するもまた妙なる哉、甲黨の繼承が缺如として他黨內閣に反對黨を出現し、自ら下野することが出來るといふ樣に、政權授受なり、政治意識なりが發達してゐる場合にのみ、二大政黨の效果があらはれるのであつて、それこそは政黨政治の理想であらう。

然るに日本政界の現狀は如何、日本の二大政黨は感情的對立以外の何ものでもない、その政策はいづれも財閥利益の代辯であり、財閥利益の相反する所、即ち政策の相反する所であり、その明確たる理論なく、政策の對立に政黨の體面上僞瞞的に掲ぐる看板の相違に過ぎない、眞に國家の現勢、國民福利に對する根本的理解の上に立つ對立ではない

二

例へば現內閣は成立即時禁止を斷行したが、果してそれは必然のものであつたか、前內閣が國策として營々として金本位の維持に努力し來つた、然るに突然犬養內閣を組織したものが有無を言はさず前內閣の努力を一朝にして覆へしてしまつた。政友會の再禁止は行詰り上のものに過ぎない、政友會が天下を取れば行詰り上遮二無二に再禁止すべきことは分つてゐたそれが分つてゐたにも拘らず、所謂憲政の常道なるものによつて、國家の將來も何も構はずに政權は政友會に移つてしまつた、そこにわが國の二大政黨の弊害たる誤謬がある。行詰りとか惡弊の爲で國策が極めて輕率に反覆され破壞される、さういふ政治が幾度、二大政黨を造つたことは元老の罪とも言へ得ない過ぎである。英國の八十年も前の遺物をわが國に移植して得々然たりとすれば、その明なきこと言語道斷といはねばなるまい

三　私は

今日の日本の全面的行詰りを打開するには協力內閣によつて日本獨自の力を發揮するの外はないと思ふ。國民の眞の力は國民に基礎をもつた擧國一致の政府によつてのみ發揮される。

たゞ協力內閣といつても例の安達、久原の策動などいふものによつて陰謀的に仕組まれる協力內閣は絕對に排斥せねばならない、擧國一致內閣は國民の輿論によつて導き出されるものでなければならない、その國論の統一を圖ることこそに覺醒せる政治家の最大の任務がある、固より擧國一致內閣の誕生には國民的信望を荷ふに足るべき中心人物の存在を必要とする、だがかゝる人物は統一された國論の赴くところに自然に現はれるものと信ずる。何れにもせよ、日本は今あらゆる方面に於て改革を必要としてゐる國民は意識的無意識的にそれを翹望してゐる、政治家がこの國民的希望にその眼を塞いだならば、現在の政治家の前には墓穴があるばかりである

四

わが國の政變でもう一つ不愉快なことは、政變に伴ふ地方長官のいはゆる二部交替制なるものである、地方行政の實權が政黨知事の僅々一二ヶ年の在任によつて果して何事を爲し得るか如何は言はずして明白である。國民は眞實な政治を要求してゐる、眞面目な地方行政を希望してゐる、又それによつてのみ地方自治は健全なる實を結び得るのである。然るに最近の實情は如何、黨利黨略に汲々たる政黨知事が、中央黨部の命令に基づいて眞面目な[illegible]政治を公然と行つてゐる、そしてそれも一、二ヶ年で漸くその實現の緒についた頃、反對黨の政黨知事と置き換へられ、前任知事の施政は根こそぎ掃へされて行く、これで眞に地方民の利益が增進され得るであらうか、國民はその不合理をもつと糾彈すべきである。

五　第六

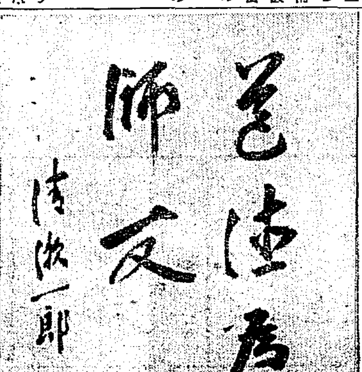
十議會は必定解散されるであらう、議會政治の上からいつて第六十議會の解散は常道である、その時期は一月二十日休會明け劈頭であることは明かに豫測される。

解散となれば二月二十日前後に總選擧が行はれるであらう。その總選擧で政界の分野はどうなるか、私の觀る所では政友會の大捷となるに違ひない。政府は擧の衝に當る府縣知事及びその下に唯々諾々として犬馬の勞をとる警察署長まで大々的に更迭し、選擧に對する態度を固めた上で解散するであらう。そこで從つて來るべき總選擧は又依然たる官製選擧だ、官憲と金權とによつて選擧は行はれる、それが政府黨に有利な結果を齎らすことは言はずして明白である

日本は政治機構は進步してゐるといはれる、然し國民の政治的訓練は遺憾ながら寸毫も改善進步の跡を見てゐない、國民を侮辱するのではないが、大多數の國民は依然として官權と金權の前に屈服される、そこに日本の大きな缺陷がある。國民的政治訓練の缺如である、國民に對する政治教育を等閑に附してたゞ徒らに普通選擧を叫び、選擧權は擴張されたが、政治そのものは國民の眼から掩ひかくし國民の無自覺を利用して政治を、政權を、少數者の黨利黨略のために私する──そこに既成政治家の最大の僞瞞があり、最大の罪惡がある。

私はかくの如き日本の幾多の缺陷が寸毫も改善されずに、徒らに每年新らしい歲を迎へて行くのを見て、いつも年頭に立ち暗然たらざるを得ないのである（文責在記者）

試筆　清瀨一郎氏



全南榮山浦 榮山浦產業組合 組合長 石田幾太郎 電話五四番

全南榮山浦 北島春吉 電話五二番

湖南線榮山浦 榮山浦驛 職員一同

全南榮山浦 小笠原義之

全南榮山浦 坂本自動車部 電話一〇〇番

全南榮山浦 野口定

賀正

大邱府元町二丁目 三宅武彥

慶北 安東小學校 職員一同

慶北尙州邑 吉野尙太郎

大邱府達城町 福永精米所

金泉郡廳 職員一同

金泉郡各產業團體一同

大邱 公會堂食堂

大邱 果物同業組合

慶北安東邑 安東戊辰會

大邱商工會議所書記長 岡與市

大邱府本町 森清吉

大邱官公立 中等學校長會

大邱商工會議所
會頭 小倉武之助
副會頭 吉田由己
同 韓翼東
理事長 太田善之助
司事 李膺福
庶務主任 宮內益夫
調查主任 梅津良雄
外職員一同

大邱印刷株式會社

大邱元町入口 夏川小間物店

大邱府東門町 中西廉

大邱府東門町 高田官吾

大邱無盡株式會社

大邱卸商組合

大邱府南龍岡町 青木勝

大邱府八重垣町 山口榮吉

大邱府大和町 高木商店米穀部

大邱府八重垣町 磯貝商店

大邱府本町 南方商店

大邱府南山町 金榮台

大邱府新町 慶北水產株式會社

大邱府新町 秋秉和

慶尙北道警察部 宮田修次

大邱驛前 米力自動車部

慶北尙州邑 稻垣文華堂

慶北 金泉警察署

慶北尙州邑 稻垣德三郎

慶北 軍威公官吏申合會

慶尙北道 山林種苗組合

大邱專賣局安東出張所 安東販賣所 職員一同

大邱府西城町 李炳學

大邱府村上町 御料理 明石

大邱府東城町 イビシヤ百貨店

大邱府元町 西井マート

大邱憲兵隊長 水野保

大邱府本町 山口陶器店

大邱府八重垣町 大野庄三郎

大邱府壽町 平節九一

大邱府村上町 御料理 いこま

大邱府東城町 竹中定夫

阿川組 大邱出張所

棟居酒造場 大邱東雲町

慶尙北道立大邱醫院 職員一同

大邱穀物株式會社

慶北青松郡 官公署職員一同

大邱旅館組合

合資會社 龍岡組 大邱府南龍岡町

若松商會 酒造部、米穀部 大邱府東門町

慶北善山 十五日會

慶北金泉道立醫院 職員一同

慶尙北道 義城邑內官公吏一同

慶北 慶州電氣株式會社

慶尙北道 英陽昭和俱樂部

新年

興南邑大橋里
竹原雜貨店
電話二一番

朝鮮窒素供給所附屬
高等理髮 堀田理髮館
咸南咸州郡興南邑

朝鮮窒素供給所附屬
岩屋商店
咸州郡興南邑

朝鮮窒素指定
大石寫眞館
咸州郡興南邑本町一

咸興府朝日町
本町券番
電話五三九 九四三番

咸鏡南道評議會員
井上通
咸興府大和町 電話二八番

西咸興驛前
三協商會咸興支店
牧野政一
電話三二六番

咸興醫師會

三井物産咸興駐在員
三輪孝貞
咸興府大和町 電話三三三番

朝鮮窒素咸興出張所長
清田戊寅

咸興府會議員
渡邊利一
咸興府中央通 電話六六五 三一〇番

咸興府大和町
北鮮倉庫株式會社
電話三二五、四三五番

咸興府會議員
森田秦雄
咸興府本町 電話一四五番

咸興府會議員
大川市二

咸興府大和町
小藤藥店
電話一一〇番

咸興府會議員 咸興消防組副組頭
中原正作
咸興府大和町 電話三三番

咸興辯護士會

咸鏡南道評議會員
盧弘周
咸南中山邑內

朝鮮料理
北一館
咸南北青邑內 電話二八番

咸南咸州郡
地境公立普通學校
職員一同

咸南北青郡
楊川公立普通學校長
清傳吾

今井正明

咸南中山郡 長平面事務所
職員一同

咸南中山邑會議長
金秉虎
外議員一同

咸南五老郵便所長
山本政雄

咸南北青郡新浦公立普通學校長
佐々木一郎
咸南北青郡新浦公立小學校長
芝孝雄

咸南永興警察署
職員一同

惠山鎭公立尋常小學校
惠山鎭公立普通學校
職員一同

長津郡上南面事務所
職員一同

長津郡新南面事務所
職員一同

長津郡中南面事務所
職員一同

惠山鎭憲兵分隊長
諏訪與平

御旅館
寶來館
小田又市

惠山鎭營林署
職員一同

惠山鎭料理屋組合

咸鏡南道立惠山鎭醫院
醫官 內田陸三
外職員一同

龍源公立普通學校
職員一同

咸興府東陽通
昭和堂藥房
電話六四六番

咸興府東陽通
山田蔘藥堂藥店
電話四四五番

咸興府東陽通
大坪蓄音機商會
咸興支店
電話五〇七番

咸興府東陽通四八
石田雜貨店
電話六二九番

咸興府東陽通
富士屋玩具店

咸興府大和町
咸興タクシー株式會社
電話一三三、八二九番

咸興府東陽通
ラヂオ電機類
右田電機商會
電話四五五番

咸興府會議員
國技捨九郎
咸興府朝日町 電話七四三、六二一番

咸興內地人飲食店組合

咸興府本町
咸興印刷所
電話七二九番

咸南三水郵便局長
鳥山英雄

咸興府東陽通
パン洋酒 洋食器類
明治屋
電話五六五番

咸興府會議員
池田金治郎
咸興驛前 電話七四四番

咸興府東陽通
和洋製菓
風月堂
電話三六六番

咸興府大和町
銃砲火藥 金物煙火
德本咸興支店
電話一四一番

咸鏡南道評議會員 三水郡三南面長
李庚洙
咸南三水邑內

咸南咸州郡
朝陽公立普通學校
職員一同

咸興刑務所
職員一同

咸興無盡株式會社 咸興土地金融株式會社
社長 信田秦一郎

咸興府大和町
金光正市
電話一四番

惠山鎭
木材業 高瀬敬藏
電話二二番

惠山鎭消防組頭
今野德一
電話六番

惠山鎭
國境拓林株式會社
電話一〇四番

惠山鎭電氣株式會社
電話二二番

咸南咸州郡
興南公立尋常小學校
職員一同

咸州郡興南邑
咸南タクシー株式會社
興南出張所
電話二〇番

興南邑本町三丁目
カフエー 樂園
杉本光藏

興南郵便所長
渡邊龜五郎

朝鮮窒素供給所附屬
和洋御料理 宴會仕出
興南食堂
咸州郡興南邑 電話二九番

咸南咸州郡興南驛前
木材 石炭 合資會社
小池商店
電話長一四番

興南警察署
職員一同

興南邑本町三丁目
興南映畫館
電話長一〇六番

咸興商工會
會長 金山福太郎
副會長 吉本太一郎
外役員一同

咸鏡南道 穀物檢查所

咸鏡南道 穀物協會

端川郡廳
職員一同

咸南五老里公立普通學校長
山口勘太郎

咸南咸州郡五老里
公醫 長岡巖

下碣警察署
職員一同

咸南長津邑內
長津公人倶樂部

文川警察署
職員一同

咸興府本町
松竹映畫封切場
眞砂館
國井勝英
電話三六八番

咸南甲山公立普通學校長
長友眞喜哉

甲山警察署
職員一同

甲山郡廳
職員一同

能川清之助
電話九番

大橋定治

須磨源三郎
電話九番

朝鮮酒造 酒類販賣
兼光壽助
電話五六番

永登浦
村田喜一
電話一五番

給興郡守
山田俊夫
電話一三番

永登浦普通學校長
木田恒助
電話八番

永登浦小學校長
時長宗治
電話二七番

金融組合理事
上田廉一
電話三一番

醫師
樋口祐二郎
電話十二番

田村太平次
電話三二番

郵便所長
梶山周介
電話二三番

醫師
小田智敏
電話一七番

永登浦邑長
森高源藏
電話二九番

諸官衙御用達
山本洋服店
朝鮮京畿永登浦驛前
電話三五番

宮本齒科醫院
日本齒科醫學士 宮本範男
永登浦本町

咸鏡南道廳職員一同

咸鏡南道金融組合聯合會

咸鏡南道各金融組合

咸南利原郡南面邑興里
利原鐵山株式會社

咸興物産株式會社
西湖水産株式會社
咸南製氷株式會社

咸興土木建築工友會

京城府古市町四三
吉岡刀劍店
電話龍山三五六四番

山口洋服店
山口巖造
京城府漢江通十一ノ二四
電話龍山八七〇番

上原酒造場
京城府大島町

京城府黃金町二丁目
泰明商會
京城出張所
電話本局三三〇一番

元町
更科
電話龍山四一一番

京城府元町二丁目
谷野商店
電話龍山一五九番

京城府米倉町九三
梶原商店
電話本局三六七番

京城府漢江通一三
戶張工業所
戶張又市
電話龍山五三四番

京城府漢江通一三
合資會社 寶榮商會
電話龍山長一〇七 六二三番

京城本町二ノ三八
御料理
松金
電話本局六八六番

山十製糸株式會社
京城出張所
京城府漢江通

酒精 瓦斯 厨爐
虎印酒精アルコール
三加美商店
京城本町三丁目三八
電話本局四三八〇番

京城府榮町七番地
日本工業合資會社
京城出張所

柴田組

京城府本町二丁目
プレイガイド
電話本局二七七四番

エナーチー根絶…組
原田龍芳
出張所 京城旭町二丁目七九番地

京畿道廳高等官
食堂會一同

本社 京城府南大門通五丁目
合資會社 昭和トラック
代表者 吉田彌五右衛門
外社員一同
(京城、仁川、水原、運行)
電話本局三二一七番
出張所 仁川府海岸町 高杉回漕店陸送部 電話五十九番
代理店 水原驛前 江口 安養 雲石 素砂 清光堂 電話五十一番

京城府旭町一
朝日酸素商會
電話長龍山一〇〇四番

銘酒 天佑 釀造元
石原酒造場
京城府漢江通二三
電話龍山二八・八〇番

龍山三角地
京屋京染呉服店
電話龍山七五二番

調理 會席 東煮 料理仕出し
木町二(明治製菓横)
田子作
電話本局一三九九

京城府漢江通七
龍山信用組合
電話龍山一〇二番

京城醫師會

池田病院
池田季雄
池田勝三

京城府鍾路
百貨販賣
株式會社 和信商會
電話 光化門 …

京城府明治町一丁目
有價證券 現物專門
天 大原現物店
大原正藏
電話本局一八九二番
振替京城六九二

京城府本町一丁目四八番地
電氣器具、電氣機械器具、電氣諸材料販賣
越田電氣商會
電話本局長一四三〇番
振替口座京城六五五六七番

京城府若草町通り
看板
伊豆天壽堂
電話本局一三八八番

京城府黃金町一丁目
堀田鐵工所
所主 増井治郎吉
電話本局一五七八番

京城府黃金町一丁目百一番地
合資會社 清水組京城支店
電話長本局三四九番

年頭の辭

東拓理事 中野太三郎

昭和七年の新春を迎ふるに當り、聊か所懷を述べたいと思ふ。

顧れば 多年に亘る財界の不況は昨年六月フーヴァ米國大統領の國際モラトリアム提案により假然人氣沸騰し一陽來復を豫想する向もあつたが、却つて獨墺金融經濟の一大恐慌を誘發し、延いて九月英國の金輸出禁止せらるゝや歐米諸國の金利引上乃至金輸出禁止を敢行するもの相次いで起り、不況打破を目的とする列國の政治傾向は、關稅戰、金融戰、資本戰の如き經濟戰爭の激成を誘致し、我國に於いてもこの大勢に超然たるを得ず十月及十一月再度に亘る日銀の利上を見、前半期に於ける金融緊縮の狀態が依然一變して再金輸出禁止を現出せるに加へ政變と同時に金輸出再禁止公布せられたる爲め混沌たる狀態に推移せる一方滿洲事變の突發を伴ひ所謂多事多難を極めたる昭和六年を送つた次第である。

而して 茲に新春を迎ふるに際し、四圍の情勢を觀ずるに、先づ對支問題の圓滿なる解決に依り內は滿洲、蒙古經營の好材料を有し、延いて產業貿易の發展を圖み得るのみならず、外にありても重要諸國の經濟調整せらるゝあり、ドイツの緊急令による低物價政策乃至公私債務の減額強要は結局現下不況の最大原因と認めらるゝ賠償問題の根本的解決に努め進出し得る可能性を豫想せられ、國際關係の漸進狀態なるを看取せらるゝやうな譯であるから漸次好況の曙光を招來するであらうと考ふるは強ち謬見ではないと信ずる所以である。

而還の如く財界の前途に就て一部に於て傳ふる程悲觀すべきものではないと考ふるものであるが、依然として國力の發展は一つに經濟的進出に俟つの外途はないのであるから朝鮮の豐富なる資源の開發と產業の振興を策することとの緊要なるは今更ながら痛切に感ずるのである。

我東拓 は前年に於ては時勢の情況に即して朝鮮業務部及土地改良部を廢し、新に朝鮮支社を設置する等諸般の職制を改正し社員の減員を行ひ統制ある組織の下に經費の節約、事務の簡捷、能率の增進を圖り更に人事の刷新を斷行し陣容を一新し世を擧げての不況時に處しても官民各位の厚き支援を仰ぎ相當の成績を擧げ得たのであるが今年に入りては我社設立の地たる此の朝鮮に專ら主力を注ぎ共產業に金融に一層貢献したいと思ふのである。即ち農業經營に於ては社有地より數百萬石生產を目的とする五ケ年計畫の實行に着手し、農場制度を採り農業經營合理化を促進すると共に或は散在地を整理し集團地經營に移し或は土地改良を行ひ、施肥の增加並に耕種法の改良を行ふ等新して經營的農法を行ひ鮮米增產と農事經營の發達に貢せんとするものである。又金融業務に於ては不動產擔保貸出の需要近時益々多きに上るに鑑み貸出の迅速を計る一面

出來る 限り其希望に副ずることとなすと共に、米價極度の安値の現狀に鑑みて米穀金融に主力を注ぎ更に朝鮮總督府に於ける產金助成の方針に則り鑛業金融の圓滑を計り斯業の發展に努むる傍ら當社自ら直接採鑛に當り、尙近時總督府の北鮮開發の方針決定せらるるに從ひ當社もこの巨大なる資源を擁藏する新天地に向つて林業的、金融的に其施設計畫を伸張し而して新年以降は我東拓として爲すべき事業は各方面に於て多々ありと信じ調査計畫を進める積りである、即ち當社は獨得の機能と創立の使命により又總督政治の方針に則り朝鮮の拓殖事業に一層努力し以て聊か邦家の進運に貢したいと思ふのである。

一切は不言實行

中央朝鮮協會理事 元本社長 阿部充家

過般稀の壽の祝をされた阿部充家氏はこの頃でも時日中央朝鮮協會に出かけ、病に臥り日向になりして一意專心日鮮融和の爲め不斷の努力を續け朝鮮のため盡されてゐるが氏を訪ふて在社當時の思出話をと問へば

『別に何にもいふ事はない、一切は不言實行だ自分はさう思はぬが年のせゐか矢張り老衰してゐると見ねる先日來人へ色々な事を話すと飛んでもない間違つた事が書かれたりなどするから最近一切話さない事にしてゐる』と云つて語られたが見た所身體にまだ鑠鑠たるものがあつた

土地改良事業問答（二）

◇―中村寅之助

―大にやつて見た、組合自體の致命の爲にも、又新規事業勸獎上の障碍を除く爲にも必要だからなあ

先づ高利債の借替が大きな仕事だつた、產米增殖、更新計畫後の組合は起債の半額が大藏省預金部の低利資金になつてゐるので、最高平均七分四厘で、最近はずつと低下して六分七厘の金が使へるのだから高利ともいへないが、更新計畫の組合は概ね銀行の普通資金を借りてゐたので、平均利率も八分から九分內外のものが多つた。元來利廻の薄い農業資金にこんな高い金を借りて引合はないのが當然で、不良發生の一原因を成したとも見られやう。そこで、數回に亘り大藏省預金部から約三千二百萬圓の借替資金の融通を受け、現在では更新計畫の組合の起債は總べて平均利率七分以下に低下し、不良組合の分は概ね五分六、七厘まで低下してゐるから若干利率については最早これ以上を望むわけには行くまい

それから、不良組合の追加改良工事や災害復舊工事に對しては五割乃至八割の特別補助金を交付しては極力負擔力の涵養と負擔の輕減を圖つて來たし、又預金部及農事改良の指導についても本府、地方共呼應して出來るだけのことはやつたんだ

―それで不良組合の整理は大體片がついたのか。

―前にいつたやうに整理案を決定して實行してゐるのもあるし、整理案を考究中のものもあるが、どうやら一段落を告げたと思ふ。しかし、根本的に缺陷があつて存續の見込が立たないのが二組合あつたので、これには政府の特別補助金を交付すると共に銀行及組合員にも應分の犧牲を拂つてもらひ廢止してしまつた。

―水利組合區域の地價が下落して地主の金融が梗塞して困るといふ話があるが。

―工事施行前後の土地賣買價格を比べると下落したものが相當あるのは事實だ。組合數からいつても約三分の一の組合の地價は下落してゐる。殊に不良組合は已むを得ないが、相當の成績を擧げてゐる組合で地價が下落したのは不良組合の聲に驚かされて精神的に不安を釀成したこと、將來二十年なり二十五年なり長期に亘る負擔があることから、擔保價值を減殺したことなどにも原因してゐるが、これは單に組合區域に限らない、最近農耕用土地は一般に下落する傾向に在つたんだ。それから銀行が一方では組合に資金を出して置きながら、組合區域の土地に對する評價を下げ過ぎるといふやうな矛盾した態度を採るとの非難も聞かぬではない……。

―組合費は高いし、地價は下落するし、一方と來ては地主も捨値で賣り逃げる、自然土地の兼併といふやうなことになるのぢやないか。

―不良組合が續出するとそんなことにならぬとも限らぬ。だから、不良組合を出すことは絕對に禁物だ。しかし、中小地主の沒落といふことは水利組合區域に限らず、現代の大勢ではないかね。もつと大きな社會問題として見るべきだらう。

―それはさうだが、假令部分的にしろ、水利組合事業にその傾向を助長する可能性があるといふ點については心せねばなるまい。ところで、米價暴落の影響はどうかね。

―問題さ。なにしろ、事業費の引當は米より外にないのに、その米がこんなでは影響どころか、根底を脅かされるわけだ。採算の基礎を槪一石十圓から十二、三圓に置いたものが、最近のやうに五圓や六圓の相場では、どうにも算盤の置きやうがないぢやないか。不良のものには益惡化の油を注ぎ、成績のよいのでも身銭を切つて組合費に注ぎ込まねばならぬ始末だ。

―それでも組合費は所定の通りに苛斂誅求するのかね

―組合に對しては一定の年賦金の償還義務があるのだからね。昨年は反當平均增收量の六割を地主の收得と看做し、その時價換算額から公課、肥料代、營農費等として反當四圓以內を控除したものを全部組合費に充當させることゝした。この方針は昨秋の米價暴落を一時的現象と見て、多少の困難はあつても將來の負擔を增加させぬ爲には、これを忍ばねばならぬといふ趣旨から出たものであるが、今年は內鮮を通じての不作であるにも拘らず、一般的不況と持越米の關係からか、どうも思はしい相場が出ないし、組合員は既に昨年無理をしてゐるので、特別の措置を講ずることゝした。即ち組合費は本年度豫收量及米價の豫想を基礎として算出した負擔力を限度として賦課徵收し負擔力を超過する部分は減免せしめることゝした、この負擔力の計算は、本年度豫收量の六割から組合設置前の收量の六割を控除したものを地主の收得と看做し、その時價換算額から更に增收を擧ぐるに必要な營農費の增加額を控除した剩餘額を事業に因る增收益卽ち負擔力の最高限度としたのである、この方法に依ると本年度に組合費を徵收すべき組合百五十三、その組合費總額九百八十三萬圓の中組合費の減免その他特別の措置を要するもの八十八組合、減免額三百七十八萬圓に達する見込で平均四割七分減といふことになる。その結果生ずる三百七十八萬圓の歲入缺陷の中百六十萬圓は一般會計の整理節約、積立金の繰入又は停止、高利債借替その他の方法で捻出し、殘額二百二十萬圓を起債に依り補塡することゝした

―時節柄已むを得ないところかも知れぬが、赤字埋めの借金はあまり感心しないね。

―しかし、背に腹は替へられぬ。豐凶の如何を問はず苛斂誅求はできない。それでなくてさへ水利組合費の滯納額で先祖傳來の田地を失ふ者が續出し、これに關連して土地兼併を助長するなど、苦しからぬ世評もある際だ。こゝは大所高所に立つて考へねばならぬ。今度の措置は一般水利組合員には好感を以て迎へられてゐることゝ信ずる。

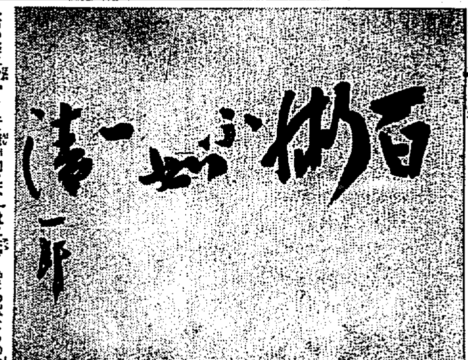
―しかも、起債に起債を重ねて行つたら結局苦痛を將來に貽すといふに過ぎないではないか。又そんな一時逃れ、その日暮しの氣風を助長するのはどんなものか。

―無い袖は振れないよ。それに米價だつて將來こんな安價が續くものとも考へられない。米價が持ち直しさへすれば、それだけ負擔力は增すことになるのだから、その時に繰上償還をするといふことにすればよいと思ふ。つまり苦痛を將來に貽すといふのではなくて苦痛を苦痛と感じないやうにならし崩しにして行かうといふのだ。

―うまく行つたらお手拍子といふところだが、一體その米價が騰るといふ自信があるのかね。

―僕は相場師ぢやないが、常識論からすればきつと騰ると思ふね。尤も一般財界の大勢、他の物價との權衡など、いろいろの條件によつて左右されることではあらうが、需給關係から見れば國內の生產だけでは足らなくなることは明だ。昨年のやうな未曾有の豐年は別として、最近十年間帝國版圖內を通じて米の生產總額は依然として八千萬石臺を上下してゐるのに、人口は年々七十萬から九十萬の增加だ。二十年を出でずして一億を突破するだらう。國民が米を常食とすることを止めない限り需要は供給を遙に超過する。價格決定の法則は正に米價騰貴の不可避なことを示してゐるではないか。若しなにかの事情で現在のやうな安值が將來も續くとしたら、その時は水利組合だけの問題ぢやない。內地農村の負債が五十億圓から六十億圓に達すると計算してゐる人もあるが、これ等にけ米を主とする農產物の價格の騰貴が唯一の期待なんだ。だから若しその期待が永久に外づれるとしたら農村はどうなるんだ。政府だつて放つて置けないぢやないか

試筆 鳩山一郎氏



年頭の辭

滿洲派遣混成旅團長 少將 鈴木美通

朔北の曠野に新春を迎へ陣中より遙かに聖壽の萬歲を奉唱し併して國運の隆昌を祈り奉ると共に年首に際して聊か所感を述ぶるは除の最も光榮とする所である滿蒙問題の前途重大化するや我旅團は重大な使命を帶びて北滿に派遣さるゝに至つたとは無上の光榮で武人の最も誇りとする所、出發の途次、各地において吾々は豫期せざる盛大な見送りを受け、國々を通過する每に如何に國民が吾等にかけたる期待が大なるかを知ると共にその使命の重き事を痛感し各部隊の將兵何れも一死報國の固き決意を以て任に就いたのであるが、未だ機到らず、僅かに白旗堡の戰鬪で敵彈の唸りを聞いたのみで戰を交ふるに至らずして敵退は後退し戰鬪中止の命令を接受し、一時は將兵共に非常に失望し髀肉を嘆ずるのみであつたが最近一部隊は新民屯、巨流河附近、北寧線の第一線の警備に任に旅團はチチハル駐屯を命ぜらるゝに至つた、この地は從に多門師團の奮鬪に依つて占領されたのであるが、その後馬占山軍は漸次勢力を恢復し徐ろに機をねらつてこれを奪還せんと企てつゝあり、兵匪の出沒甚しく寸時も油斷を許されぬ狀態に置かれてゐるので警備の任に當る我將兵は常に緊張を以て事に當つてゐる、北滿の極寒は想像以上で最近は零下四十度に降り酷烈を極めて居るのでこの寒さを冒して任務に從ふ軍隊の辛勞は一通りでないが、國民全般より寄せらるゝ慰問と同情に何れも寒さを忘れて重要任務を遂行して居る事を聊か誇りとし國民の我兵家擁護の最前線に立つ期待に副ふべく奮鬪を續けて居る、幸ひにして病傷者もなく一同士氣極めて旺盛である

試筆 賴母木桂吉氏

運送界大觀

朝鮮運送株式會社取締役 河合治三郎

◎舊臘は一新致しました此頃らかな氣分の裡に私は朝鮮運送界の過去を顧み聊か所感を述べてみたいと思ひます

◎一體運送業者は他人の貴重なる財貨を託されるものなるが故に最も其資力信用に重きを置かねばなりません此見解の下に內地に於て明治の初年運送業が免許制であつたことは寔に當を得て居つたものと信じます

◎それが明治五年東京陸運會所に陸運が許可されて以來明治共に驛遞事業が發展勃然として興りレールは日に月に目醒しく伸びて行き之に從ひ運送業者の需要も急速度に高まり遂に明治十二年大政官布告を以て免許制は廢し自由營業の制度に改められましたが抑も小業分立に甚く無限競爭の弊は遂く更に惡を醸して居ります

◎運送業者は逐年增加し殊に歐洲大戰の好況當時各種產業の勃興につれ益々簇出して正に小業濫立の無秩序狀態を呈したのであります

朝鮮に於ても大正十五年頃に一千五百有餘店の多きを數へ甚だしく其質を低下したるのみでなく同業者間の競爭苛烈を極め業界の安定を失ひ漸次疲弊困憊して自ら轉落の途を辿るに至りました

◎其結果として荷主側にありては運送業者の撰擇に迷ひ或は貨物の不當取扱等のため商取引上の不安も尠からず又運賃料金の如きも運送業者各自勝手なる立方にして事態は到底袖手傍觀を許さゞる情勢を馴致したのであります

◎時恰も內地に於て小運送問題は漸く識者の注目する所となり大正十五年六月鐵道省の小運送改善に關する發明に依り大合同の機運が促進され朝鮮も之に則り就せられて一部に之に倣はんとする意見も出たのでありました

◎折しも同年十二月總督府鐵道局が承認運送店規則を改正して業者の玉石を篩分け以て小運送の改善を企畫したるに端を發し運送業者は四圍の情狀を熟慮の末自發的解決の方法を選び鐵道當局後援の下に相携へて業界の大改革に當ることゝなり一面荷主方面とは荷主、鐵道及び運送業者より成る鐵道運輸委員會の組織制定など相俟つて完全なる諒解成立し遂に昨年五月合同參加店數六百八十一此資金百六十五萬圓に現金出資五十五萬圓を合して資本金二百二十萬圓の朝鮮運送株式會社を創設し今日の大合同の基礎を造つたのであります

◎併し同業者間に於て北鮮多少意見の齟齬を生じ遂に年ら全部の合同に至らず國際運送其他を殘したることに聊か遺憾の點がありますが將來運送業者は合同の分野を明かにして互に拮抗することゝなり惹いて加へて不況の深刻は愈々荷主の爭奪に狂奔せしめたるため取扱料金は再び混亂に陷り同業相食む激甚なる競爭を招來したが非常時局に大合同の機運を釀成し一歩一歩鐵道の域に近づきつゝあつたであります

◎茲に昨年八月鐵道局長斡旋の下に圓滿調停に依り愛に坦々たる途開けて諸般の問題は一瀉千里に解消し第一次第二次の合同を經て合同參加數三百十二店此の營業金百十萬圓に現出資五十五萬圓を加へ總資本三百八十五萬圓朝鮮運送人員千八百人の大組織を完成して茲に全鮮的大合同の結成を告げ其取扱ふ貨物の數量は全業者の取扱中約十割を占め更に鐵道局新施設の專用貨車に依り取扱の迅速を誇り且つ料金の低廉を期して荷主公衆の便益に資し他面には貨物引換證及び貨物證券の發行を通じて金融界とも緊密なる關係を持し一般經濟界に頗る重要なる地步を占むるに至つたのであります

◎斯くして朝鮮においては過去六年にわたる生みの苦悶を經て運送合同の大成を遂げ今や業界更生の途に就きました或ひは無謀爭は退歩なりと斷ずる人もありませうが時代は既に競爭の過程を後にして協調統制の時に遷せしものと信ぜられ變態的なる爭の累の及ぶ所寔に計り知れぬものがあるのであります

◎此見地より進んでは一般社會の福祉增進の爲に退いては同業者共存共榮の爲に眞に小運送改善の第一歩として此大道に邁み來りましたこれより生產者と消費者との仲介機關たる本分を完うすべく職務に奮鬪努力しなければなりません

◎殊に本年は滿蒙問題解決に伴ふ財貨の移動と鐵道局の自動車經營による奧地貨物の開發とに相俟つて我運送業界は益々多忙多端なるべきを豫想し得られますから業務一番刷新其使命の貫徹を期して居る次第であります

試筆 [illegible]俊丸

咸興府市場通 田村漬物店 電話八三七番

咸興府會議員 佐田實 咸興府大和町 電話三〇一番

咸興府本町 料理 仕よし 電話七四六番

咸興府昭和通 金物木材建築用 大川龜次商店 電話三二一番

咸興府會議員 木村重樹 咸興府曙町 電話一四六番

咸興府黃金通 文房具 運動具 氷島充商店 電話三五八番

咸興府大町 フォード一手販賣 咸鏡モータース商會 高橋正身 電話三二四番

咸興府大和町 金物 秋山商店 電話一一一番

咸興府會議員 吉町石太郎 咸興地方法院前 電話一五六番

咸興府大和町 中村松堂 電話九二八番

賀正

咸興府旭町 木材商 敷根角市 電話一〇七番

咸興府東雲通 文勝堂書店 電話五六四番

咸興府旭町 朝日タクシー 電話六四七番

咸興府東雲通 井上林檎 ツルチュク 住友木炭 淵野食料品店 電話四四六番

咸南倶樂部 會長 九貫政二 咸興府花咲町 電話一六〇番

咸興府大和町 咸鏡細叺株式會社 電話七一二番

朝鮮窯業供給所附屬 深崎都睦 咸州郡興南邑

新興警察署 職員一同

咸興營林署親交會

咸興府大和町 株式會社 帝國商事 朝鮮支部 電話八〇二番

朝鮮運送株式會社咸興支店 支店長 佐藤政一 同代理 守屋柳治 營業主任 松下德三郎

咸南新興郵便所長 小野敎明

殖銀北青支店長 安藤榮貳

惠山郵便局 職員一同

咸南三水邑內 三水釀酒株式會社

咸南甲山邑內 金山酒造組合

咸南豐山邑內 貿易商 自盛商店 金衡說

咸南定平郡新上面 春柳水利組合

咸南永興邑內 永興產業組合

活版石版和洋帳簿和洋紙文具類 芝田印刷所 本店 咸興府東雲通 電話一五二番 出張所 興南邑天機里 電話一五九番

朝鮮窯業指定 印刷製本 名刺印刷 岡本開進堂 本店 咸興府東雲通 電話八三二番 分店 興南邑天機里

興南邑本町二丁目 和洋食 カフェー 浪花食堂 川友 電話二四番

朝鮮窯業供給所附屬靴店 太田靴鞄店

咸興府會議員 倉掛喜丈 咸興府東雲通 電話三三二番

咸興府大和町 カフェークロネコ 電話六二四番

咸興府大和町 大和食堂 電話八二四番

咸州郡廳 職員一同

咸興府會議員 篠崎新 咸興府東陽里 電話四三三番

咸興府會議員 林良作 咸興府東坪里 電話一五〇番

咸興府大和町 日活北鮮封切館 咸興劇場 辻平三 電話六〇五番

咸興府本町 御料理 長崎亭 電話四七番

咸興府會議員 玉置省二 咸興府本町二丁目 電話二二番

咸興郵便局長 田邊宗次 外職員一同

咸興府黃金通 食料雜貨 ツルヤ商店 電話二四九番

咸興府大和町 北鮮自動車運輸合資會社 電話七四七番

咸興府大和町 新興林業合資會社 電話一〇二番

咸興府曙町 御料理 淀川 電話七三二番

咸興料理屋組合

咸興府市場通 新谷酒場咸興支店 電話一〇一番

咸興水利組合 職員一同

咸南道評議會員 咸興府會議員 松村榮三郎 咸興府東雲通 電話一一六番

咸興旅館組合

北青郡廳 北青警察署 北青邑 同法院支廳 北青驛 北青郵便局 北青營林署 同專賣局出張所 同農業學校 同小學校 同普通學校 同女子普通學校 東拓出張所 良德水利組合 大和田農林部

朝鮮窯業供給所附屬 ウエキ書店 咸州郡興南邑 興南私書函第七號

朝鮮咸南咸州郡興南（興南郵便所私書函第一號） 富田商會 興南出張所 朝鮮窯素肥料株式會社荷扱店 朝鮮運送株式會社代行業所 東京海上火災保險株式會社代理店 大阪海上火災保險株式會社代理店 三菱海上火災保險株式會社代理店 日本生命保險株式會社代理店 本店 大阪市北區宗是町 大阪ビルヂング

咸興公立學校團

咸鏡南道評議會員 共興株式會社社長 方義錫 咸南北青邑內

惠山警察署 職員一同

咸興府軍營通 大興電氣株式會社 咸興支店 電話一二七番

豐山官公署 職員一同

お正月訪れて子等は喜ぶ

塚原卜傳と猿（下）

邑井貞吉
利谷ふみを畫

此の時小太郎旗纛、大聲を掛け『ヤア〱山伏共能く承はれ、我こそは常陸浪人仁科與四郎とは假り、實に上州箕輪の住人上泉伊勢守の門弟塚原小太郎なり、先頃より國境諸方に於て我師を屠り、師名を傷けんとする無禮見逃し難きに依て師に代つて只一人此處へ飛込み斯の如く凶徒は誅殺した、我と思はんものはイデ來つて勝負の勝負に及べ、勝負々々』と呼ばつた之を聞くと大黑天の龍山坊益々猛き、迚も少人數では敵はんと思ひましたから、法螺貝を取つて空に向つて音も高く、ブーッ〱と吹立てた、其の音を聞くと一山の修驗者、たちまち四方八方より集まり來つた、其の勢大凡二百七八十人、師の敵と聞いて各々得物々々を振つて小太郎を圍んで打つて掛る、此の時勝殿に於ては木劍を拔捨て、腰に帶びたる彼の平行森の一刀を引拔き、腕の續く限り、目釘の續く限り、羽黑修驗者の死人の山を築いてくれんと、八方より斬込んで來るやつを、片ッ端からバッタバッタ〱、縦横無盡に斬り倒す、其の働きといふものは人間業とは思はれません、然し何時か疲れて滿身血ッ塗になり、到頭已人足らずの修驗者を切倒したが、如何な勇士も其身鐵石に非ざれば身體疲く疲れ、第一咽喉に渴きを生じて堪へ難く、一同の逃ざかりし隙ひに、右手に一刀を提げ左の手にて岩角に捉まり、漸く谷間へ下りて水を掬つて咽喉を濕はし、息を休めて居ると、思ひ寄らざる彼方の岩陰に隠れてゐたる山賊の名人熊犬窟の龍山、エイと一聲掛けると見る間に、小太郎の右の手に持つたる彼の渡の平行森の柄ぐるみ、腕目へ分銅を捲きれた、ハッと思つて取らうとする所をグイと締られ、前へ引かれたから流石の勇者もヨロ〱とよろめく所を、一旦遁さかつたる者共、ワッといつて寄り來り、手取り足取り、到頭小太郎を高手小手に縛り上げ、八ヶ嶽の一本松といふ所へ擔いで來て、千丈の谷へ臨んだ松の木の枝へ逆さに吊し上げました、其の下はゴーゴッといふ溪川の流れ、谿に響いて物凄い、斯くて一同はドッと鬨の聲を上げて引揚げて終ひました、小太郎今は如何とも詮方なく、只死を待つばかり、其内に彼是八ッ頃ほひになりますと、先きに登山の折に逢つた、彼の老人が來掛りまして松の枝より小太郎を下し、繩を解いて已れの肩に掛け、危ふくも八ヶ嶽を逃れまして、十四五町彼方此方と谷間を行き過ぎたかと思ふ内、何時の間にか、とある木の根方に横はり、眼を開いて見れば彼の老人は何れへ行きしか影も形もございません、さては日頃信ずる日吉權現、假に姿を現はして我が危難を助け給ひしかと、起上つて合掌をして居ります所へ、忽然として大きな猿が二十匹ばかり出て來ました、見ると自分が登山の砌り、百姓に金を遣はし助けてやつた猿らしいのが先に立つて、小太郎の手を取り、サア此方へ御出

でなさいましと、人間ならいふのでございませうが、頻りに手を引いて大きな穴の中へ伴ひました、小太郎も引かるゝ儘にそれへ入ると、猿は脊中や手足を頻りに擦り食物などを持つて來て之を進め、種々介抱してくれますから、小太郎は大きに喜び、茲に八日ばかりといふもの、猿の爲に飢を凌いで隠れて居りましたが、モウ大丈夫と思ふ頃になりますと、彼の大猿が小太郎の手を取つて頻りに導きますから、小太郎もおとなしく猿に從つて山を下つて參りますと麓で猿は立留つてキャッと聲を殘し、叩頭をして山中へ飛び歸つて終ひました、跡に殘つた小太郎殿獨り『ア、忝ない、人間とても及ばざる彼の猿の親切、是も登山の砌り、助けし恩に報いたものであらう』と傍へを見ると樹立明神の祠がございます、是幸ひと其の祠の中へ入つて暫時休息をしてゐる内に、トップリと日が暮れて終つた、迚もの事に今夜は此の祠を拜借して、一夜を明さうと思つて居る所へドカ〱〱〱○『うまく往つたな、此娘を引擾つて頭のものにした上に、娘が今夜嫁に行かうといふ磯谷七郎太夫の所へ飛込んで大金を持出すといふ大仕事、マア此方等は茲まで娘を擾つて來りヤア恐で役目が濟むんだ』△『ウム、併し頭に取つちやア金よりも娘が手に入つた方が嬉しからう、たんまり褒美が貰はなけりやア合はねなア』○『さうだとも〱』祠の中で聞いて居た小太郎、『ハア賊だな、どんな奴だか一つ様子を見たいものだ、何か得物はないかと邉りを見廻すと、姿から差込む月明りに目に着いたのは何者が納めたか木劍が一振御になつて上つてゐる、コレ究竟の得物と右の木劍を取り突然格子をガラリ開けて飛出したから賊共はアッと驚いた小『我は樹立明神の使姫なり汝等山宗へ嫁入せんとせる娘を奪ひ來りし由、不屆き至極覺悟に及べ』といふたと思ふと飛込みさまに木劍で引擲かれキャッといつて一人打倒れた○『ナニ樹立明神の使姫だと、をかしなことを吐しやがる』と五六人一度に打つて掛る奴を片ッ端からポンポン叩き倒し、駕籠の中を見ると十七八の美しい娘がガタ〱慄へて居ります小『此方は別に怪しい者ではない、山中にあつて大難に遭ひ、辛うじて遁れ來つて此の祠を借り一夜を明さんとした所の武士だ、然るに今迄での話を聞けば賊のやうであるに依て、立出でゝ皆打殺して終つた』娘『ハイ、私は矢吹村の郷士七郎太夫方へ今夜嫁入いたします處を途中にて擾はれました猪川の喜右衛門と申す者の娘たまと申します』小『左樣か、既に賊の棲家へ連れ行かれ、辱しめを受る所であつた』たま『危ふい處をお助け下さいまして有難う存じます、其賊と申すは近頃此邊を荒し廻りまする三好長兵の浪人で大山吉郎太夫と申す者の同類と存じます』小『左樣か兎に角私が先へ連れ込んでやらう』とソコで小太郎は娘を引連れ、木刀を提げて磯谷方を差して參ります處お磯谷方では今夜嫁が來るといふので、用意萬端を整へ、カン〱篝火をつけて待てども〱娘が來ない、不思議に思つて居る處へ賊が飛込み、家内の者を縛り上げ、今しも土藏から金を持出して居る最中、飛込んで來た小太郎殿、娘を傍への立木の蔭へ隠し置いて、千兩箱を擔いで來る奴をエイッ…、キャア、ドタリ、又あとから一人△『オイどうした腑かりしな』といふ奴をエイッ……、キャヤドタリ、千兩を組二ッ重ねて、待つて居ると○『頭』頭『何だ』○『何だかどうも變でございます』頭『何が變だか、出て見ろ』○『ヘエ……』野島の源藏といふ手下が出て來る所をエイッ……キャッドタリ……、處へ出て來た頭の大山吉郎太夫吉『ヤア何だ乃公等の仕事の邪魔をしやがる奴があると見ゆるな、サア來い』と刀の柄へ手を掛け、ギラリ引き拔いたが何しろ三好殿長の浪人で、腕に覺えの者でございます、小太郎をのぞんで只一打ちと切り込むと體を引いて木劍を以て太刀を引拂つたる中ゆゑ流石の吉郎太夫もタヽヽと後へ退り、吉『ヤア此の青二才、味をやるな』と二度目に打込んで來る奴をハッシと打つて手もとへ踏込んだる時に吉太夫一足退つて小太郎の足を拂つて來るを心得たりと體を縮めて躍り上ると見ねたが、エイッ打下ろしたる木劍に吉郎太夫は腦骨微塵に打破られ、ウンといつて打倒れました。小『ヤア〱家内の者、此方は決して怪しき者にあらず、當家の爲に大盜賊を悉く退治して遣はしたり』といつゝ縛られて居る家内の者の繩を解き、隠して置いた娘を連れ來り、前の始末を詳しく物語りました、歡つて一同は小太郎を神の如くに敬ひ、直ぐ娘の實家猪川の喜右衛門方へ知らせる、喜右衛門方でも今娘を擾はれたと逃げ歸つた者の注進に依つて大騷ぎ物々を携へ、娘を取返しに行かうといふ騷ぎの處へ磯谷より知らせがありましたので一同安心をいたし、磯谷方へ來て見ると賊共はそれに打倒されてをり、何れも塚原小太郎の働きを聞いて舌を卷いて驚きました、早速土地の代官へ屆け、檢視も下り、死體の取片附けも濟みまして、磯谷方では滯りなく婚禮の式を擧げた、是も塚原先生の御力に依る所と、式が終つて後家族大小舅姑に至るまで立派なものを取揃へ、金子三百兩を添へて禮を致しました小太郎一度は辭退を致しましたが強つてといふので、之を納めて矢吹村を出立し、上州箕輪の師の許へ參る途中話さま〱のお話がございますが餘りお長く相成りますから此處に留めて置きます

茂平次見状【92】

行友李風
藤井耕畫

地獄小屋（一）

山の天氣は一向當になりません

今まで、足柄峠の頂邊にかたまつてみた、まるで古綿のやうな鼠色の雲の固りが、忽ち崩れて飄々と、早雲山の方へ亂れ飛び、冷い風が一陣ドッと小屋を揺つて、峠から谿へ吹き下しきす。

十國の奥、北に金ヶ岳、南に冠ヶ岳を控へた硫黃ヶ原の小地獄谷──飯倉屋地獄、酒屋地獄、紺屋地獄の總稱──の丁度中程にタッタ一軒、板葺屋根の地獄小屋

茲所は、白山妙理權現の垂跡の地、天平の往昔行者淨定に依り初めて温泉の世に知られたといふ湯元の根源、晝夜を別たず谷の底から隙々たる湯氣を噴き上げ、硫の硫黃は燃ねて黃なる焰を立て流るゝ水は悉く熱湯となる、焦熱大焦熱の別天地。

物凄いとより寧ろ怖ろしく、容易に足は踏めない。

『これだ、いよ〱雪が近くなつた』

五十からみの傴僂の少屋番が、焚物の雜木の束を居爐裏邊へ運び込む。

谷の深みから早や暮れ掛る夜の闇、嵐に吹されて湯氣が地を這ふ逢魔が時。

『また一日暮れてしまつた、何をする間もありやアしねえ』

老爺は獨り呟きながら、馴れた手附で甲斐々々しく、夕餉の仕度に取掛ります。

『こう日が短くッちやア、田へ出る間が出來ねえから、氣の毒だが今夜もマタお極りの雜炊だ、仕樣がねえ』

物を煮るにも爐の火は一切用ひない、小屋の横手の土の窪みへ鍋を入れると下から湧き出る熱湯の力で、瞬く裡に煮沸る。

便利といへば便利、だが何よりも水に不自由をする。

老爺が、雜炊を煮てゐる處へ、小屋の裏手から裏手に濡れた手拭をブラ下げ、裂片に眼竹の杖を突き、藁屋の湯治裝束なげに近づいて來た一人の若者。

『おッ、今、歸つたよ』

『お前、大層寒さうだなア?』

『宜い心持に温まつてゐた物だから』

『急に寒くなつたから、氣を付けるが宜いよ、この上ブリ返しちやア大變だぜ』

『有難う、今夜も風だなア』

『よいお月夜だが、雪催ひだ』

『へー、こんなに地の底は燃ねてゐるんだが、矢ッ張り雪はふるんだね?』

『アッ〱、この篩ばかりは、翔むやうな事アねえがふるなア降るあの通りだ足柄の頂上が薄ら白くそまつたからなア』

『道理ねえ、考えて見れやア霜月もモウ下旬だ』

『定めし江戸が戀しからう?』

『酉の市だなア──』

若い男は、キビ──と區切れのよい江戸前な〱但馬屋の傳藏の子分で、淺草安倍川町に住む乘屋返世で、皆く腕れ蹤跡の知れなかつた手先の三五郎でありました。

『察しるよ、物の半歳この山奥でさんざ不自由な月を見せられちやア、お江戸の空が懷しいだらう?』

『戀しいからこそ、そんな話ア止してくんねえ、折角辛用に諦めてゐるものを、想ひ出させなア罪といふもんだ──』

『ヤ此奴ア俺が悪かつた、堪忍してくれ』

『ナアニお前。堪忍も何もあれやアしねえ、お前のお蔭でどうにかマア、以前の身體になりかけてゐるんだ、爺さんの親切ばかりやアこの三五郎、骨身に沁みて有難ねと思つてゐる、死んでも忘れやアしねえから──』

ホロリとして聲を潤ませる。

『その堪忍の次手にもう一ッ、今夜も不味い雜炊だ、我慢をしてくんねえ』

『宜いッてことよ、贅澤なんぞ云へた義理ぢやアねえ』

『ナニ湯漬は一ッ走り、里へ降つて來るつもりだッたが、先刻とんでもねえ野郎がさ、迷ひ込んで來やアがつたばッかりに、余計な暇潰しをさせられてしまつての』

『エッ、誰か、來たのかい?』

『變な男だよ』

『フーム、變なとは?』

『マア、内へ入つてくれ、俺ちやア不可ねえ、話アゆつくりしやうぢやアねえか』

誘ひ立つた爺を兩手に、先へ立つ老爺。

三五郎は默つて、後から小屋へ入ります、居爐裏の焚火が行燈がはりで。

出て切る小屋の板戸の隙から、嵐に追はれて流れ込む雪煙──。

賀正

茂山郡廳 職員一同

茂山 味噌醬油 木村釀造所 木村光三郎

全北井邑郡古阜 青木武治郎

全北井邑郡 古阜水利組合

全北井邑郡古阜 青柳勝吉

全北古阜郵便所 和田孫九郎

全北古阜公立普通學校 並松茂

全北井邑 染川德一

全北鎭安 荒木勇規雄

全北鎭安 山田弘範

全北 錦山郡校長會

全北沃溝普通學校長 日比弘

全州郵便局員一同

全州邑長 邑會議員
藤谷作次郎　武內七郎　[illegible]

全州料理屋組合

全州遊廓組合

全北全州 榊谷組出張所 電話四二八番

全州酒造組合

裡里三十日會

裡里醫師會

裡里木曜會

全羅北道食堂員一同

全州專賣局俱樂部

全州七曜會

全羅北道金融組合聯合會

各地金融組合

全州初等學校長會

全北全州 貸座敷 樋渡宗俊 電話二一七番

全北全州 共和自動車商會 電話二四九番

全北全州 末吉組出張所 電話四〇九番

全北全州大正町 御菓子司 ズボラ堂 電話一〇六番

全北全州 食料品店 大濱屋商店 電話四〇番

咸鏡線興南驛前 建築請負 北島組興南出張所 電話三六番

興南邑事務所 職員一同

片倉製糸紡織株式會社咸興製糸所 所長 新村正夫

咸興金曜會

殖銀咸興支店長 塩川濟吉

端川警察署職員一同

咸鏡南道立咸興醫院 院長 高田昇 外職員一同

咸興穀物商同業組合

咸興府昭和通 御旅館 千歳館 電話三三二番

全北 茂朱金曜會

全北茂朱郵便所 淺野喜八郎

全北茁浦 茁浦旅館 電話一八番

全北茁浦 志熊達夫

全北茁浦 本田武男

全北茁浦公立普通學校 近藤林平

全北茁浦 明渡誠一

全北淳昌精米製造組合 理事 申敬休

全北 淳昌公立普通學校 職員一同

全北井邑産業組合 福田嘉一

全州道立病院 職員一同

全北全州大正町 佐々木杏雲堂

全北全州 佐伯芳吉

全北全州 三浦善次

全北全州 是永文房具店

裡里藥業組合

裡里高等女學校 職員一同

全北裡里 吉田松太郎

全北裡里 山崎要助

全北淳昌郵便所 江口舜一

全北 井邑金曜會

全北淳昌公立尋常小學校

全北茂朱 茂朱館 主 山中又次郎 電話六番

全北長水郵便所長 荒木通雄

全北長水郡學校長會 長谷川憲 朴道一 吳震相 神崎德次郎

全北長水 黃仁杓

全北南原 御菓子司 だるま堂 電話五三番

全北南原 吉川喜太郎

全北南原邑 南原電氣株式會社 電話五六番

全北 嚴敦永

全北裡里 河本國三郎

裡里學校長會

全北裡里 草ケ谷文房具店

裡里料理屋組合

裡里工友會

裡里土木局出張所

全北全州大正町 日の丸旅館 電話二〇番

全北 高敞産業組合

實話講談

猿廻與次郎

松林伯知演　木俣茂彌畫

板倉周防守が京都所司代の節寛永年間の事其支配内の堀川に有名の與次郎と云ふ者が在つた。此處は大道藝人の長屋です、此の一廓の内に世俗猿廻しと云ふ藝も大道藝人で與次郎と呼ぶ孝子が居る。母を櫻木と云ひもう老年、與次郎は十九歳、故郷見ならばそろ／＼六百六號の御厄介を受ける年齢だが、これは又色氣も無ければ風榮もせず天氣がよければ垢と膩眼で横縞の消えかかつた木綿の衣裝に木綿の紋付裃を穿き、長刀のやうになつた脇差前を穿き、小さな風呂敷包を背負ひ、其の上へこのみと名づけた小猿を乘せ、小さい太鼓を持ち猿を膝に滑して、下加茂明神の鳥居前に稼ぎに出る、さうして少しでも餘分に儲ひがあれば、母に好物の菓子を供へ畜生にも旨い思ひをさせ、喜ぶ顔を見るのを無上の樂みとして居る、今日は年の瀬といふ大晦日です、與次郎は常より早く歸り、夕餉を濟ませ、このみにも食物を與へた頃には、トップリ暮れた、薄暗い行燈のもとに何やら思ひに沈んで居る、窶れた母の姿を見ると思はずホロリと涙を落した、與『阿母さん、何を考へてお在で爲さいます』櫻『與次郎や、廣い世の中にわたし程因果な者もありますまい、知つての通り私偶者には早く死別れ、お役からは何の音信も無く、なさない中のお前にばかり苦勞をかけて誠に濟みません』與『エヽ勿體無い／＼さういふ事は夢にも仰しやつては下さいますな罰があたります、疎かなお世話も出來ませんのに何の恩儀も仰しやらず埒ねて居て下さるお心持が、私はお氣の毒でなりません併し阿母さん、人間の一生は七轉び八起とさへ申します、斯んな惡い事ばかりもございますまい、正直にして稼いでをりましたら、又運も向いて參りませう、何卒お氣長にその時の來るのをお待ち下さいまし』櫻『さう云ふお前の優しい心を聞くにつけても思ひ出すのはお役の事です、せめて貧しい中にも兄妹揃つて手許に居てくれゝばお前も氣強からうし、又わたしとしても女は女同志、あれとも相談して何とか手助けにもなれませうものを、これもわたしの淺い智慧と思ひませう』與『アハヽヽもうもうお廢れなさつて、今お阿母さん、與下そんな事許り考へてお在でなさると御身體の爲です床をのべますからゆつくりお寢みなさいまし私もふせります』と起つて戸棚から引出した薄い油染みだ布團薄い夜着手拭で拵いた木枕枕元を破れた二枚折の屏風で圍ひ與『サアお寢みなさいまし』櫻『テハ寢かして戴きます』與『サア／＼何卒』老母は快く伏床に入つた、與次郎はそのまゝ行燈の傍に坐し、腕を組み、頭を襟に入れ太い息を吐いた與『困つたなア、阿母さんに無苦勞をかけまいと思ひこれ迄何の話しもしなかつたが、段々押詰んで來た時、舊と違つて一年のきまり日何に據詰い美濃屋の旦那様も今日は待つては下さるまい、それに越後屋さんのあの番頭が、大きな聲でも出されると困るが』といつて右から左とお拂ひも出來ず、どうした物か』と思案に暮れて居る、折しも○『與次郎さん、居なさるかナ』いひつゝ表の戸をあけて入つて來たは美濃屋六兵衞といふ酒屋の主人です、その顔を見て與次郎は益々胸は閉ちた、六兵衞は上り框に腰をかけ、六『扨與次郎さん、誠にお氣の毒だが今夜はお前の貸勘を拂いては貰はないよ、縱令幾らでも拂つておくれ、失禮だが此處に居る猿を相手にして他人様から貰ひ集めて來る錢だ、どう稼いでも知れた物だし、世間と云ふ厄介者もある、それでお前さんがその錢で酒でも飲むとか、女にでも手を出すやうなこともなく、なりふりに構はず親を大事と孝行をして居なさるから誰の困るのにも頼りは無い、すまぬと思へばこそ正直に頭を低げて詫びもするのだ、感心な人だ、無理はないと待つて上げて居る内に、味噌と醤油とで三貫六百溜つてしまつた、扨さうなると不人情のやうだがわたしの方も商賣だからさうは待つても居られ無い、第一他の御得意先に知れた時に申譯が無い、それに大晦日でもあるからやつて來たが、併しお前さんの方にも又都合があるだらう無理は決して言はない、千兩のかたに編笠一蓋と云ふ例もあり、心持だから幾らでもおくれ、それこそ二百でも三百でも宜い、快く拂つて歸るから、さうしておくれきまり日だけ にわたしも 困るから』と柔かに細り付くやうに言われると、そこを押して待つてくれとも頼めもせず、只面目なく頭をさげて居るところへ○『與次郎さん、居たかね』と又門の戸をあけて入つて來たは越後屋五兵衞といふ因業な米屋の主人、諸人呼んで鬼といふ五『オヤ美濃屋さんも來てゐなさるね』六『ヤア越後屋さんか、さてはお前さんにも迷惑をかけたな』五『かゝつたにも何んにも些とも埒が明かねえんだもの、弱つたよ』といひつゝ六兵衞のそばへ腰をかけて五『與次郎さん、困つてしまふね、拂ひは如何つけてくれるのだね、米と薪で十六貫五百だよ、施しにしてゐる顔觸じやアね、それで奉公人をつかつて飯を食ふのだから、さう／＼いゝ顔をしては居られねえよ今日は大晦日だ、今夜は綺麗に拂ふだらうね、此の上に待つてくれは圖々しすぎるぜ、世間の奴が俺の事を鬼といふさうだが角でも生やさなければ此方が先へいきついてしまふ一厘ぐぎりは如何つけてくれるのだ』と鬣を叩いた、與次郎は何にも言はず起ち上ると、帶を解き、綿神まで脱いで古布子の上に被せ、紐のやうな帶も添へ、『これは親譲りの一本、節走の恐さに質へながら』與『何共申譯がございません、お詫びのしるし、どうぞこれをお持ち下さいまし』と二人の前に出した、先刻から向ふに居て見て居た小猿のこのみは、チヨコチヨコと與次郎の後に來て、着て居た紫い紋の袖無しを脱ぐと、器用にたゝんで主人の衣裝と重べ、與次郎と共に頭を低げボロボロ涙をこぼして詫びて居る、これを見て情深い美濃屋六兵衞が泣き出した六『アヽ可愛い物だな、飼主の難儀を助け度いと着て居る物まで脱いで一緒に詫びるとは、何と云ふ健氣な畜生か、不人情な人間には此の眞似は迚も出來無い、人間は跣足だ、併し思へば不思議な物だ、與次郎さんが孝行者だから畜生にまで此の深切がある、揃ひも揃つた立派な了簡これには感心した、與次郎さん、從來の貸しは棒を引き改めて親火をつけてお前さんにあげる、さうして此子二人の面倒は出來ない乍らわたしが見やう、安心をおし、越後屋さん、前に濟まぬ無いが、此處で與次郎さんを裸體にして行つた處で悪口八百貫まると云ふ譯でも無からうし此度此の入合せは美濃屋がする、わた しも損をするか らお前さんも諦めて勘定は綺麗に與次郎さんに、やつて下さい』五『やるとも／＼此の畜生の姿を見ては、何で此の着物を持つて歸れる物か、俺は五十五歳だがこれまでに涙をこぼしたのは兩親の歿んだ時と今夜許りだ、先刻から見てゐたがなんと云ふほらしい小猿であらう、猿は引搔く許りが能だと思つて居たが、成程人間に近いといふが眞實だ出來る事なら毛を三本殖やしてやり度いと思つて居たんだよ』六『まつたくさうだ、これが人間ならば與次郎さんのよい話相手だらうに、何故畜生に生れて來たか惜しい物だ、時に相面 に櫻は引いてくれやうね』五『引くよ、それこそ股引より太い櫻を引く、そこは安心だ、サ與次郎さん、お前と猿が大切な稼人だ、何方が風邪を引込でも困る、早く着物を着せてやつておくれ』與次郎は嬉し泣きやがてこのみに袖なしを着せ、己れも衣裝を着た五『それじやア掛けやう、それでは與次郎さん、美濃屋さん、勘らう』六『アヽ出若し足りない物があつたらば遠慮なく取りにお出で、店の者にもいひ付けて置くから、留守でも持つて來て使つて宜いよ』與『有難うございます』五『來ても薪でも失くなつたらば家へお出で、わたしが居なくともお前が來れば入用だけ持たせてやるやうに小僧や若い者にもいつて置くから、時々見廻つてはやるが、阿母さんを大事にしてお上げ』と鬼の五兵衞が佛と變つての深切、その儘美濃屋と共に出て行つた、越後屋五兵衞の大證文は破れて屏風の踏で零細を踏いた母の櫻木は、それへ出て櫻『與次郎や、お前の幸行、このみの深切、泣いてわたしは聽いて居ました、それにつけてもこのこのみお身に着けた物まで脱いで……何と云ふいぢらしい心か』と親子が片身代りに小猿を掴き頬に頬をあて泣いて居た。

扨一陽來福新玉の春を迎へる、元旦は下加茂明神の初詣で境内は非常な混雜する、與次郎は斯う言ふ時に儲けて閑な時の用意をして置かうと、汚れ垢染みた木綿の衣裝に木綿の紋付を穿き、小風呂敷を斜に背負ひ、その上へこのみを乘せ、小さな太鼓を持ち、猿を膝に滑してその朝堀川の宅を出て明神境内に來るともう人は出盛つて居る、兩て鳥居前の廣場へ來て莚を敷き、その上に小猿をおろし己れも坐し、頻りに太鼓を打つて人を集める、參詣の老若男女はその音を聞くと人『ソレ、堀川の猿廻しが來た、お猿の藝を見て行かう』と忽ち周圍は黑い人垣を築いた、そこで與次郎は小猿の鋼につけてある細紐を宥めて太鼓を打ち拍子を取つて唄ひ囃す、このみはそれにつれて舞ふ、その形のおかしく面白いのと、鋼の巧さに魅せられて四方から雨の降るやうに投錢をする、與次郎は程度の處で投錢を止め與『このみや、大分頂けたやうだ、お前がお禮をして集めてお出で』と命令すると、小猿は默首くと、與次郎から渡された大きな財布を左に持ち右の肢で落ちて居る錢を拾ひ、一々頭を下げて財布へ入れ、ついて居る錢で口を結び、キヤーといつて與次郎に渡す、猿は四肢動物で四足共に手の代用をする不思議な獣です、見物は感心して○『何うだ、飼主た物では無いか、頭間な人間にはとても斯うは氣が廻らないよ、併し又よくこれまでに仕込んだ物だね、斯うするまでが大變だ』なぞと噂をして居る、この群衆の中に所司代板倉周防守の家で聞い酒癖のある吉田一平といふ酩酊れ武士が、五體に波を打たせ醉顔朧として見て居たが、一『面白い猿の藝だ、拙者も餌代を遣はす、今一度舞つてくれ』と持合せた錢を一掴み、パツと小猿の頭へ投付けた、痛かつたかこのみはパチパチと二つばかりまばたきをして、鼻の先へしはを寄せると飛びついて一平の顔をバリバリと掻きむしつた、一『ウツ痛い、無禮者ツ』と左の手で頭を押へ、右手に太刀の柄を掴つて振返つた白刃の光に驚いて小猿は與次郎の膝の邊に逃げて來る、與次郎はあけてゝ後に廻し、刀の下に手を突いて與『どうぞ御勘辨下さいまし、何にも存じませぬ畜生の事、どんな粗相を致しました私が代つてお詫びをいたします、何卒御了簡なすつて下さいまし』一『インヤ、勘辨ならぬ、何にも知らぬ畜生と其方は申すが、凡そ獸類の内にて最も人間に近き物は猿類である、猿智慧とさへ申す位賢い物だ、思ふに拙者が彼の頭へ錢を投げつけたを憤り、飛付いて面部に爪をあてたに相違無い、小癪な奴だ、これへ出せ、眞二つと致す、出せなきじ懇意をかけると其方の爲めにもならぬぞ』與『御立腹は御道理ではございますが、此の猿を力にその日を過る貧乏人今此處でお刀の錆になりますと明日から老母を養ひます事が出來ませぬ、何卒不憫な奴と思召して今日の處はお助けなすつて下さいまし』一『ナラヌ』與『そこを御無理でもございませうが』一『エヽ、五月蝿い、默れ、武士の面部へ穢れた畜獸の爪を立てさせ、只此の儘に濟むと思ふか、白痴奴、そこを退け、猿奴を出せ』と飽くまで迫つてゐると向ふに見て居た職人らしい若い男、男『オイ御武家何も俺は猿の贔負をする譯では無いがそいつぱお前が少し無理だらうぜお侍じやア無え、顔を見せて貰つて居るんだ、お前だとて錢を見度いと思ふから苦しい中から錢をやつたんでらう』一『何、苦しい中から、苦しい中とは何だ』男『苦しく無ければおとなしく拋つてやんな、拾ひ心の良いやうに何だ、今の樣は、畜生だとて生物だ、ぶつかれば擲え、癇を起すのは當然だ、俺だつて飛付きたくならア、お前のする事が惡いから引搔かれたんだ、それを腹を立てゝ切らうと云ふのは勝手過ぎる、切るよりは猿に詫びて歸つた方が宜からうぜ』○『さうだ／＼猿の方に理窟があつても侍には無えぞ、早く謝いな、顔の大切にあやまつてしまへ、馬鹿野郎』△『馬鹿武士、サンピン野郎』男『オイ、猿廻しの兄貴、斯んな判らずやに何を言つたとて言ふだけ野暮だ、係合つて居ると詰らぬ怪我をする、今の内に猿を背負つて逃げてしまひな、世の中に馬鹿程恐ろしい者は無ねえ、口惜しくともこうなつたら逃げるが勝だ、俺達がかかつて居る内に早く逃げたよ』△『眞實だ、お前が正直に頭を低げて居ると馬鹿は圖に乘つて何をするか判らねえから早く逃げてしまへ、命は大事だぜ』○『猿廻し怪我をし無い内早く逃げろ』△『逃げて仕舞ひー』と口々に言ふ、イヤ一平は火のやうに憤つた一『無禮なる町人共其方等から先きに成敗致して遣はす、其處動くなツ』と身を飜へしビユーと大刀を振廻した、騒い町人は言つてもそこは又町人の悲さ白刃に向へ無い、ソレ危ねねと四方へ散つた一『柔弱者奴、逃げおつた、サア今度は其方の番だ、早く猿奴を出せ、出せと申すに』與『そこを御了簡下さいまして』一『エ、面倒だ』と與次郎の詫びてゐる頭上を望んで振下した此時、留守武『待て』一『コレ何を致す、邪魔立て致すと打放すぞ』武『斬るなら斬れ、武士の威光を笠にきて心無き町人を苦しむる不所存者、後來を戒めて戻して遣はす、能く鎭ねて置け』と押ねた手を放したその機に乘じて一平がさつと斬付た、武士は輕く身を轉じ延びた手首を摑むとグイと引いて置いて突放した、一平は二三間太刀を提げたまゝ驅出すと俯伏に倒れた、その時に向ふに在つた石で額部をかいて居る行儀の悪い身をキユーと擦つたが擦がつて居たゝけに既の擂面も痛い』『己れッ』と起き上つた額を見ると鼻から唇頤へかけ出血の爲めに染られて居る、醜面の武士はカラカラと笑つた、一旦散つた見物は忽を見ると再び集つて來て○『顔を見ろ、だから早く猿にあやまつてしまへと言つたんだ、間抜け野郎、その面は何だ、口惜かつたら矢でも鐵砲でも持つて來い、俺が一人で引受けてやる、御武家様、若し來ましたら後來を戒めて戻してやる、能く覺えて置け、今のあれを一つお願ひ申しますよ』と小さな聲で醜面の武士に加勢を頼んで居る、成程これなら安心です、小氣味好く思つたかドツと笑つた、一平は酒の醉も醒め、拔刀を鞘に納め鼠鼠ひをして逃げ去つた、與次郎は蘇生の思ひにホツと息を吐き、大地へ手を突いて、與『旦那樣、危い所をお助け下さいまして有難う存じます、お蔭で命を拾ひましたお邸樣は何方でございませうか』武『イヤ、別に名乘る用は無い、怪我も無く無事であつた、縁あらば復會ひますぞ』と言ひ捨てゝ武士は社の方へ急ぐ、是が與次郎の妹お役の夫番口傳兵衞である、此の邂逅が幸となつて孝子與次郎の出世を見ると云ふ猿廻し與次郎の實話・本年の干支に因み斯は口演いたしました。（終）

新年文藝

俳句（三）

題『新年雜詠』　臼田亞浪選

秀逸

○　京城　龍興　洲雎
紋付の子の可愛ゆくて四方拜
○　京城　小山　利夫
酒ひたひたと霧袋に迫る初明り
○　京城　近元　翠明
柏子の音澄む杜の初日の出
○　京城　島比　雨城
枯葉二三枚元旦の雲溜り
○　若山　三宅　露天
惡氷りとけし日影に雑煮かな
○　咸鏡　內田　鶯籠
曇かけ障子にうごく夜のかるた

○暁け雪のかげの姿さよ初詣　新義州　村松　精史
○敷かるたひろげてありし夕心　京城　稻垣　茂光
○今年から三人となりてお正月　京城　安田　翠雨
○晴れの母の步唄や初日の出　京城　吉濱　雨村
○初旦惡越しに聞く唄らかさ　鳳凰西　安木　輝雅朗
○初荷積む船の小旗に吹雪して　京城　今野　千代丸
○雪明り馬橇がれて初荷積み　咸北　松南　暉

○　甘浦　松岡　正樹
いて寄柾初湯に浸す子供かな
○初湯すんで明け近き雪晴みぬ　京城　吉川　昌司
○凛扇のお日の眩ゆく風揚子　大分　德永　蒼光
○松飾風砂光り門灣まで　仁川　坪井　蒼扉
○新年の雪さら／＼と今朝の山　仁川　中村　白蓮
○初凧が初凧をよぶ暁や　京城　福増　一奕
○蛩初の燃ねあぶる雪のどんどかな　永登浦　碧村　耕一
○初凪ほの／＼濱潮ちてゐる　大田　有馬　三洲
○敢かるた女がとめばたまめかし　忠北　岸村　笑山
○初風呂や豊かな乳を撫でゝ見る　忠北　岸村　とら女

○雛一つつき合ふて子等むつまじき　忠北　岸村　樹蔭
○屋蘇酌むや子なき夫婦の暉けくも　關東州　金矢　光平
○若水の星ちら／＼と汲まれけり　忠南　服　俊浩
○凧あがる愛畑耕し初日出　京城　有賀　渓東
○羽子の羽繁く暮きて日の昏るる　京城　進　乗邑
○蹄の響くこの山住みも年明つ　平北　星野　越洲
○初日射す破損戸の歪々ひきにけり　全北　金　洋文
○祭るべき佛もたず年の酒　咸北　岡崎　豊秋
○初日拜むその顔・ピン。頭り髮れて　咸北　六條　利川
○初湯居たる一族の歎福や　京城　巌　一葉

賀正

全南榮山浦　田邊廣
全南榮山浦　橋本印刷所　主　橋本盛進
全南榮山浦　北垣吉之輔
全南榮山浦　運送荷物取扱　荷主組運送店　代表者
朝鮮全南榮山浦中町　雜貨商　大谷商店　大谷文利
全南榮山浦　榮山醫院　電話一〇番
朝鮮全南榮山浦　吉村商店　振替京城八七九六
全南榮山浦　諸藥品　化粧品　高橋藥店　電話二二番
全南榮山浦　加藤盛春　電話一〇二番
朝鮮全南榮山浦　米穀肥料　林實治商店　電話四六番
全南榮山浦　國重精米所　電話二二番
朝鮮湖南線榮山浦　米棉肥料　李東起商店　電話一〇三番
全南榮山浦　朴張柱齒科醫院
全南榮山浦　米穀肥料　徐亨伯　電話六五番
米穀肥料　森崎胖一　電話三九番
全南榮山浦　貨物自動車部　淺井忠太郎　電話五七番
榮山浦郵便所　職員一同
全南榮山浦　大江旅館　電話一七番
全南榮山浦　料理　阿部萬吉　電話二八番

榮山浦公立普通學校　職員一同
全南榮山浦　黑住農場　電話七番
榮山浦公立尋常高等小學校　榮山浦公立實科女學校　職員一同
全南榮山浦　會長　板谷紋一
銀行平澤支店長　和久田政
平澤電氣株式會社
平澤警察署　署員一同
カネモ商會　森賢吉
德川農場　平澤出張所
京釜線平澤驛前　米穀肥料商　垣內恒太郎　電話九番
平澤金融組合理事　池田養治
京釜線平澤　長瀨鐵工所
平澤農業倉庫　緒方尚
振威郡平澤面　畿南麵子製造場
振威郡安仲里　中脇源藏商店
平澤自働車運輸株式會社
平澤郵便所長　石川順平
京釜線平澤　平和病院　院長　金炳龍　電話十一番
京釜線平澤　坂井商店　電話一九番
平澤本町通　北一樓料亭　電話三八番

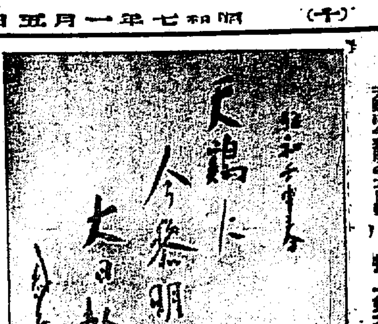
京畿道振威郡平澤面長　成周漢
京釜線平澤驛前　材木商　岡田武吉　電話二六番
平澤面事務所　職員一同
平澤驛前　加納旅館　電話七番
平澤驛前　大成商會
平澤穀物檢査所長　金鎭澯
京釜線平澤驛前　米穀商　李敏斗　電話三番
振威郡　鄭春根
黃州　合資會社　黃州果樹園　代表　坂秀一　電話六番
京義線黃州驛構內賣店　イサゴ商店　電話二四番
兼二浦公立尋常高等小學校　職員一同
兼二浦郵便所　局員一同
兼二浦邑長　石橋正光
兼二浦　貸座敷組合
黃州　朝鮮興業株式會社　黃州支店
江景學校組合　會議員一同　管理者　坂上富藏
江景繁榮會
江景川改修期成會

谷山郡　吉山米穀商組合
向上會
合資會社　荒巻醬油釀造所　荒巻俊馬　西島貞吉
舒川郡　米穀商　田中商店
趙基元
兼二浦本町　水落材木店　電話四番
兼二浦明治町　米穀肥料商　吳鎭憲商店　電話二四番
兼二浦明治町　土木建築請負　土佐野國太郎　電話二八番
兼二浦本町　公醫　森方正　電話九番
兼二浦明治町　乘松吳服店　電話三四番
兼二浦本町　御料理　清繁　電話二九番
兼二浦　松屋商店　電話五一番
兼二浦本町　宮野醸造場　電話二〇四番
兼二浦邑長　栗秋萬作
黃州面長　尹景赫
黃州　山口商店　電話十番
兼二浦市外松林里　果樹栽培　昭和園　大久保果樹部
黃州　公醫　李東熙　電話二七番
黃州公立普通學校　稻垣德藏
兼二浦金融組合　船田卓一
兼二浦本町　千葉寫眞館
兼二浦明治町　三田齒科醫院
兼二浦公立普通學校　職員一同

兼二浦明治町　和洋酒食料品雜貨　大和屋商店　電話五二番　振替一〇二〇四番
兼二浦本町　土木建築請負　松本宇右衞門
黃州郡長　渡邊國治
黃州　志賀農園　電話二二番
黃州　吉尾金治郎　電話五番
黃州　飯島幸平
黃州　石井果樹園
黃州郡廳職員一同
兼二浦　土木建築請負　岡組出張所　電話四二番
京義線黑橋驛前　合資會社　森農場
兼二浦　金子恭輔
茂山營林署
丸山德三郎
金山浦刑務支所　職員一同
金山浦公立尋常小學校　職員一同

黃州郵便局　職員一同
黃州驛前　山本果樹園　電話五四番
兼二浦市外松林里　山本果樹園
長連警察署　職員一同
殷栗公立普通學校長　藤岡清一
道評議員　洪淳翰
殷栗面長　洪昇植
蟻末長吉
長連面事務所　職員一同
殷栗公醫　李膺五
山縣壽一

天鶏に今黎明の大日輪　井上剣花坊氏筆



随筆　夜泣石

田中貢太郎

世の中が不景氣になつて來ると、いろいろのことが行はれる。例へば江戸時代の頃に盛んであつた出開帳と云ふのも其の一つである。それは諸國から神體佛像などを江戸へ持つて來て、開帳して賽錢を集めることである。出開帳があると江戸の市民は、『今日から兩國に善光寺の開帳がある』とか、『明日から淺草で道了權現の開帳がある』とか云つて、それに群集したものだ。

其の頃、遠州小夜の中山の者で江戸へ來てみて出開帳を見た者が村へ歸つて

『どうだ、ひとつ夜泣石を持つて往つては』

と云つて村の者を勸誘した。夜泣石は今器石から日坂の方へゆく路傍にある楕圓形の黒い石で、直徑四尺、周圍一丈二尺位のものである。それはもと中山の峠にあつたもので、傳說によると、妊婦が武藏の國の方へいつてゐる夫の許へゆかうと思つて、その峠へたどりつき石へ腰をかけて休んでゐると、惡漢が來て女を辱かしめようとした。女は辱かしめられまいとして必死になつて抵抗したので、惡漢は怒つて女を斬殺した。其の時女は姙娠してゐたが、斬られた時傷口から胎兒が生れ、それがべつに負傷もしてゐなかつたので、なさけある人に育てられて成長し後に復讐する事が出來た。一方、女の腰をかけてゐた石は、夜になると人の啼くやうな聲を出して啼吟するやうになつたので、弘法大師が行脚の際、石に佛號を刻んで供養した。今、中山の久延寺へ參詣したものは門前の茶店の老婆に

『名物の飴をめしあがれ』とすゝめられるのであるが、それが女の傷口から生れた小兒の育つた飴であるとのことである。

さて、夜泣き石の開帳のことであるが、村の者は江戸へ往つてみた者から、賽錢が雨の降るやうにあがると云ふことを聞かされて、皆が指が動いて來た。

『こんな不景氣でも、そんなに賽錢があがるか』

『それやあがるさ、江戸は天下のお膝もとぢやないか。』

『さうだとも、江戸には金がうなりよる』

『往かう、こんなに不景氣ぢや、野良仕事ぢやおつつかない』

村の者はいよいよ夜泣き石を持つてゆくことになつた。そこで會合をして、開帳でもうけた金は、費用はさし引いて、後は山わけと云ふことに申しあはせ、旅費のくめんをして、石を起して木馬に積み、幾日もかゝつて海岸へ引き出し、そこから船を雇うて江戸へ向つて出發した。

『いくら位の賽錢が上るだらう』

『さあ、賽錢が雨の降るやうにあがると云ふからには、一日で五十兩や百兩は、わけはないだらう』

『さうとも、江戸には金がうなつてる。』

『一日五十兩としても、十日やれば五百兩ぢや。』

『五百兩ぢやきかんさ、それに參詣人が多ければ、十日が二十日になつてもいゝぢやないか。』

『さうとも、三十日でも四十日でも、金がとれることなら、一年中やつてもいゝ、鋤から泥の中へ入つて、百姓するにはあたらない』

『さうとも、旨い物を喫つて、きれいな女子を見て、それで金になることなら、おらは一生江戸にゐてもいゝ、泥くさいことはしたくねえ。』

村の者の眼の前には、もう雨の降るやうにあがる賽錢が見えて、其のちやらちやらと鳴る音まで聞えた。

『待て待て、入ることはいつても出錢も多い、木馬代、石を出す間の飯代、船賃、これもなかなかかかる』

それは一行の宰領格で村の口きゝであつた。其の男は小さな算盤を持つて費用を計算してゐた。

『費用位、なんでもないぢやないか、百兩か二百兩あれや、あまるぢやないか』

夜泣石を積んだ船はやうやく江戸へ往つて、兩國へ着き、旅籠の主翁に頼んで開帳の場所をこしらへてもらつた。そこで小屋掛けを作り、船から石をあげた。小夜の中山の夜泣石は、有名なものであるだけに忽ち江戸中の評判となつた。旅籠の主翁も喜んだ。

『此のむきぢや、參詣人がうんと來ますぜ。』

さていよいよ開帳の日になつた。村の者は夜も眠らずに朝になるのを待ちかねて、小屋へ出かけて往つてみると、その小屋の隣にも夜泣石の開帳があると云つて、それは夜泣石の大きな看板を出し、幟をたて、小屋の周圍には幔幕を張りめぐらしてけいきをつけてゐた。村の者はふざけた奴だと思つたが、べつに自分達の石が、うて往つてるわけでもないのでどうする事もできなかつた。

そのうちに時刻が來ると、江戸の市民は有名な夜泣石を見ようと思つて集まつて來たが殺風景な小屋掛けをした本物の夜泣石の方へ入らないで、けいきのいゝ隣の小屋へ入つて行つた。其のうへ隣の小屋では、參詣人が見ねると、置いてある石が小兒の啼聲のやうな聲を出した。

『ほんとに泣くぜ。』

『夜泣石つて、よく云つたものだ』

此の隣の夜泣石は狡猾な香具師のやつた仕事であつた。そして石の下へ嬰兒を抱いた者をおいて泣かしたがためであつた。本物の夜泣石を持つて來た者は、これがためにすつかり失敗して、はうはうのていで石を持つて歸つたのであつた。

草庵の春

島田青峰

元日や句屏風いつもある借景

◇

凧ずつて乘鞍つて見し二日かな

◇

年頭の景氣話も三日かな

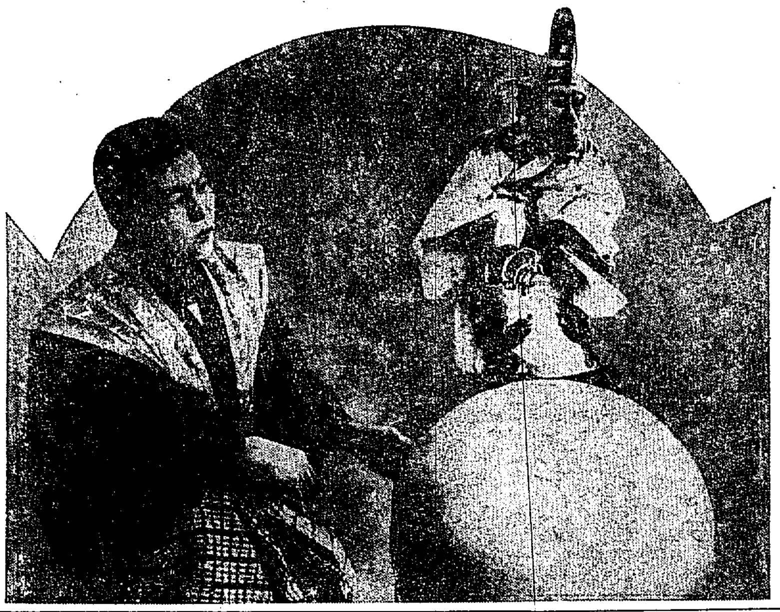
◇

松の内の筆閑にある机邊かな

◇

松過ぎの庭のくまぐま掃きに出

玉乘り



新年文藝　川柳(二)

題『猿』　井上剣花坊選

○ 裡里 森安 笑樂
猿の揮毫と繪とで無理强ひに
○ 釜山 山縋 牛歩
人間よりも猿の方が本家
○ 京城 金子 狂柳
娘つ子どこをおかしく猿を見る
○ 京城 光野 松雨
しくぢつた猿は鋭い目を感じ
○ 京城 小岩 いさむ
猿の毛に三本多い思ひ出
○ 鐵原 川那邊 都子
沐猴にして冠りすそれは人
○ 咸南 西村 雄々坊
猿智恵の張良は木から落ち
○ 慶南浦 菊川 正翠子
蟹柿を騙して喰つたまゝの面
○ 京城 有賀 與三七
肝腎なとこで動かぬ猿芝居
○ 關東州 金矢 光平
蚤取りに智恵を見せて猿の戀
○ 滿州 波多奥 知吉
栗拾ひ時親猿は子をつれめ
○ 京城 合原 鏡二
人たかり覗けば猿の廻しなり
○ 京城 瀧 茶庭
猿智恵をだして金ピカ首になり
○ 京城 井上 勝馬鈴
引かいて儲けそこねた猿廻し
○ 江景 西 坊
あはれさは猿に一家が養はれ
○ 釜山 新木 古鏡
猿廻し猿に食せて共に生き
○ 京城 金丸 あきを
世標は乳をのませて孫が取り
○ 下關 平野 渭
たまされた小猿二度目は横を向き
○ 京城 田中 たけし
猿廻し踊れば暗い家に住み
○ 江景 久光 はるみ
孕み猿果の樹々に强く歩き
○ 忠南 都山 也笠樂
猿の居て生徒の列は亂れたり
○ 京城 福増 一笑
さかさまにめでたいをする尾長猿
○ 大連 渡邊 雨柳
惡まれて惡んで解けぬ犬と猿
○ 長崎 郵 冉風
病む猿の檻に動物園アー
○ 長崎 梅田 裟仙
病猿を慰てゐる猿に陽の溫み
○ 浦項 及川 修三
放浪の旅をつゞけて猿廻し
○ 龍山 羽間 十の字
看板の猿三方に敵を受け
○ 新義州 田邊 銀波
反抗の日もある猿の時衣裳
○ 仁川 坪井 昇郎
番犬の聲に猿現立ち止り
○ 慶南浦 安里 柳雅郞
惡運つきて猿智すゝ逃げ
○ 南山 竹田 順吉
生命より繩が氣になる猿の酒
○ 馬山 宮崎 黒ン坊
慣手猿を見てゐて顏が減り
○ 京城 岡田 いと
欲はつた尖けしか知らぬ猿芝居
○ 京城 小森 甫柳
猿廻し儲けたゞけを一人醉ひ
○ 群山 北川 北公子
斷念の鉛嚼んでは猿もだゆ
○ 長崎 梅田 生衣
姜毛の猿恐いのかチヤン〳〵コ
○ 裡里 久 梁仙
親猿はモー坊ちやんを頭みす
○ 馬山 新岡 巴天子
誘劍にラッキヨウの皮猿はむき
○ 京城 吉濱 斗ん坊
最後まで猿ラッキヨウを剝いて見る
○ 鷲湖里 杉浦 霽山
猿曳の大鼓も交る春の音
○ 龍山 佐留 黄月
猿轡に啣くはませて芝居なり
○ 慶源 大石 久
小利口の奴さと猿の例をひき
○ 京城 飯田 朝霞
不景氣が猿を肩から强く投げ
○ 中江鎭 井口 呑洲
子の菓子へ猿の舞踏の亂れ勝ち
○ 京城 小林 猪千呂
出來心舞台の猿は餌に走り
○ 平壤 守山 夢幼坊
お子さんはこちらと猿の御愛嬌

節婦實傳　維新俠艶録　(146)

橋爪彦七氏作　竹内静古氏畫

出師(二十二)

次瞬!

觀三郎は、拔き討ちに源衣を斬つてゐた。

抑へきれない力が働いて、誰を斬るのか、自分でも判然としない程だもなしに、たゞ目の前にゐた人間を斬つたといふ刹那の、手首に傳つてくる異様な手ごたへに似た感覺が、全身に――筋肉といふ筋肉に、いつもの快感を與へたのだつた。

觀三郎がやゝ己れにかへつた時には、源衣は、五體を蛇身のやうに躍らせて、噴き出してくる血潮のなかに呻いてゐた。

脇が切れてしまつて、女の黒髪が、血と一緒に疊の上に仰つてゐるのが、長虫のやうにも見えた。

物音を聞きつけたのだらう、仲居が急つと入つて來て、すぐと腰を拔かしてしまつた。

『きやッ!』

と云つたのと、觀三郎が背後から斬り下げたのとが同時だつた。

病魔に蝕ばまれて、ひどく肉の落ちた觀三郎の頬に、殘忍な微笑がのぼつた。

深傷を負ひながら、それでも凝乎と見上げてゐる源衣の眼に、異常な緊張が見受けられた。

『觀三郎さま……』

とやつとの思ひで呼びかけて、そしてすぐとまた血汐のなかに顏を埋めてしまつた。

『は、はやく……逃げて……』

それが、源衣の最期の言葉であつた。

何で自分が斬られたのか、どういふわけで觀三郎が刀を拔いたのかも知らずに、彼女は矢張り自分の兄の仇を討つてくれた觀三郎を、最後の瞬間まで慕つてゐたに相違ない。

いつそのこと、仲居を撫で斬りにしてやらうかと、ふらふらと氣がふさがつたのだつたが、冷いむくろになつてゐる源衣の淺ましい姿を見ると、フイと氣を替へて、裏梯子からおりて行つた。

觀三郎は、いつか島原の田圃道を影のやうに歩いてゐた。

どうして源衣を斬つてしまつたのだらう?

觀三郎は、急に源衣がいとしくなつた。膽開いて、抱き起してやりたい様な氣持が、切なく彼の胸を賑してきて泣きたさうな顏つきになつた。然しそれに氣が附くと、彼の心は、急にまた冷たくもとの殘忍さに返つた。そして最初から彼の五體に走つてゐる退歇とした荒々しい心持が、大波の様に彼の劍氣を揺りあげてくるのがわかつた。

半分以上も睡つてゐる良心を無理矢理にゆすぶるやうな心持で、鈍く反省してみた。

をりから、自分の前方に提燈がひとつ、ゆつくりした足下を照してくるのが見えた。何か高聲に話しながら來るのが、聞き覺えのある音聲である。

觀三郎は道の片わきによつて、何かしらものを待つやうな心持になつた。

頭で提燈が來て、その灯の明りで、侍の顏がはつきりと分つた。近藤勇である。

提燈を持つてゆく隊士が、ちらと自分を見たやうな氣がした。が近藤は、知らず顏で行き過ぎた。

一瞬、一瞬!

立ちつくしてゐた觀三郎は、絲に引かれる者の樣に、近藤のあとをつけ狙つた。

鯉口があがる……と、見る間に觀三郎は拔き打ちに近藤に斬りつけて行つた。

ガツと鍔つた音がして、鯉、鯉と交錯れあふ氣配がした。

近藤は、すぐに拔き合せてゐたのであつた。そして、

『鬼頭!』

と、鬼の鋭い近藤の聲が、觀三郎の胸の底深みに突き刺つた。

新年文藝　自由詩

(本社撰)

佳作

詩　嶮岨な山で

松本吉郎(平北雲山北鎭邑)

嶮岨な山だつた
栗の月が燃へてゐたり
紅の太陽が海に消れてゐたり
誰も知らない山だつた
森や果には綺麗な花が咲いてゐたが
踏み縫ひしたら谷だつた
谷の底では蝮蛇が無數に住んでゐた
女が枝を摑んで死んでゐた
誰も知らない山だつた
嶮岨な山だつた
狼や獅子や未だ知らぬ猛獸が住んでゐる山
青い烈風に狩人達が來ると言ふ山
風の激しい山だつた

或る事務室の風景

野原鱗一郎

その建物は　冬の最長中でも七十度より温度に降らない
そこには　三十近い机と、緑の椅子があるネクタイの男が、毎日それに腰かけてゐる
建物は　みんな有名な商店である
建物は　アイサツがうまい
建物は　その建物の『大將』であるといふ
男には　非常に敏ケンな、日付をすることに慣れてゐる
今年二十四の勤り者は、三日毎に色の變つたネクタイをつけて來る
その中には人絹のものも混つてゐる
頭毛の手入に能力の全部を費された綺な男もゐる
洋服にブラッシばかりかけてゐるのもゐる
洗面所で　顏をそつて、ハンケチばかり洗つてゐるのもゐる
チヤズバンドの様な男もゐる
俳句を作るのもゐる
シンシもゐる
保日足袋の長甘い女は
想が好きだといふ
好きだといふ!
二時だ
『大將』がノッソリ現はれたその建物が緊張した

太陽

松南輝(慶北龍山)

飲空な感情的な形相をして三十層の机の上にいつぱい動き出した
面の時計は
その工場の勞動力が上昇を謳りと
黒い線を引いた
オーイ!
危いッ
今
お前達の建物の上に
飛行機が落ちかゝつてゐるぞッ
!
敵兵を殺け
零下三十度の曠原を闇中列車が走る
る る る
爆裂
る る る
鼻鏡は突貫する
逆行はしないこの黙點とした日歐
若い智能に斬殺を必要としない
非斷を阻害する思想の銃彈は
切斷してしまへ
若竹は彈る
太陽に向つて飛び上る
鐵屑の三角檢から地上へ映る美麗なスペクトル
それではない
白の光線太陽に向つて
る る る
鼻鏡は突貫する

拔錨の船體

高尾九州男(京城初音町二一三)

秋の月明の夜――
あゝ、私は棧橋に佇んで拔錨の船體を見る
黒く大きい船體に、船は間もなく排水をつゞけ、丸い船窓の窓には租稅を卸はせる秘密に溢れた明い灯が輝やき、
船首は、投錨の聲作に忙しい。
やがて埠頭に高く響きわたる銅鑼の音は朗らかだが――
今宵、船を捉する様な月明の夜に、
船は海上の音樂を背に何處へ何しに、拔錨を企て港を去るのか
青海は恰も巨大な生きもののやうにかすかに息づき、きらめく灯影は故里の追憶をもつ。されど
鋼鐵の背け明り止めな静謐な音響を傳へて、この美しい秋の月明の夜の港を背に
動く凪んだ海面に向つて――
月に照らし出された船體は、渺々たる海洋を覗望し心のはげしい躍動を抑へ、港口に向け、徐々に動き出してゆく
あゝ、それは幾夜か波浪に揉まれ、揺られ、洗はれはすれど――
海洋に漂ふ木の葉の様な船體ではある
明日の朗らかな又華やかに壯麗な黎明をいち早く豫感して船は拔錨を企て港を去るのだ
私は唯一つ
明日に開くすこやかな世紀の新らしい芳香甚き花ゆらに
明日を豫感し
今宵、望ましい、拔錨を遂げ
秋の月明の港を去つてゆく船體に
强く熱烈に誘いて來る羨望の希望を乞ましい
一九三一、一一、二五

麗水郡守 中野益

麗水公立普通學校 職員一同

麗水公立尋常高等小學校

麗水署員一同

麗水金曜會

麗水郡廳

麗水邑事務所

賀正

麗水郵便局員一同

朝鮮全羅南道麗水 本田精米所 電話四〇番 振替釜山一一六番

全南製氷株式會社 本社 全南麗水邑 電話一二四番

全南水産株式會社 本社 全南麗水邑 電話九三番

麗水 長榮樓 山下源吉 電話五二番

麗水東町 海月 矢野サワ 電話三七番

興洋水産株式會社 本社 全南麗水邑 電話二五番

麗水港 滿月樓 赤星ミキ 電話二一番

全羅南道和順 和順警察署 職員一同

全羅南道 寶城郡廳 職員一同

全羅南道 潭陽警察署 職員一同

麗水旅館組合
麗水館旅館 電話一〇二番
鶴屋旅館 電話一六五番
長門屋旅館 電話一七四番
冨士屋旅館 電話二四番
海老屋旅館 電話三六番
喜久屋旅館 電話一〇〇番

全羅南道 潭陽郡廳 職員一同

全南松汀里 岡山旅館 主 逸見高藏

全南松汀里 自見卯三郎

全南松汀里 天產物 海産物 肥料商 三備商會

全南光州 萬屋旅館 電話一〇九番

全南光州 福井屋旅館 林伊之助 電話七〇〇番

光州第一普通學校前 三浦勇

朝鮮全南麗水 麗港運輸株式會社

米穀商 松汀里 (イロハ順)
橋田金太郎 電話六番
大崎常藏 電話一〇六番
柳生岩吉 電話八番
木村千藏 電話一一番

全羅南道廳 食堂員一同

全羅南道光州郡廳 郡守 倉元大喜 外職員一同

光州各中學校長 大内猪之助 落合秀保 河内平治 小林致哲 平野吉三郎

光州開業醫師會 (イロハ順) 岡鍋吉 高橋重矩 檜木正 安東進

全南光州花園町 清酒菊日光醸造元 光州酒造株式會社 自働車シボレー販賣店 自働車修繕部 日本石油販賣店

大興電氣株式會社 光州支店 電話一二番

全南光州 會席御料理 春の家 電話一二一番

光州名産甘柿純良山羊乳 全羅南道光州院村里 サクマ農園 主 佐久馬隆 電話四六番

全羅南道立光州醫院 院長 平瀬亨三 外職員一同

壬申新年紙上名刺交換會

文明琦

吉坂泰太郎

鄭文鉉　水原

松下芳三郎　釜山

佐々木吾石

西本組　南濱生康治

徐丙朝

牟田貞之進

多賀秀敏

京城師範學校長　頼近官太郎

富野繁一　京城三坂通　電話龍山

由岐源治　釜山府大倉町

福島吉　光州

光州湖南銀行專務　金

平田保太郎　光州

岩瀬靜　光州

土木建築請負業　貴志新五郎　全州

奥田亀松　大田

高山聰郎

山崎晴平

久永麟一

孫永稷　釜山

杉村逸樓　釜山

秋吉正夫　京城南山町　電話本局

石田千太郎　釜山

杉本福市　朝鮮酒造株式會社全州支店

廣瀬　釜山

山川恒之　元山府本町一丁目三番地

黒木吉郎

大島良士　釜山

永井十太郎　釜山

醫師　上田構一　光州

奥村信吉　光州

細井亥之助

松本武正　京城府和泉町

大本方代

竹下

和田滋穂

建築請負業　濱田源治　全州

高原竹次郎

大田　古谷修輔

黄海道警察部長　大河原重信

辯護士　岩橋朝一　光州

大田　白石鐵二郎

醫師　渡邊友　松汀里

殖産銀行全州支店長　山崎陳平

渡邊宰造

宮内司　元山府本町一丁目四番地

淺野保之　松汀里

原田定造　全州

櫻井　松汀里

玄俊錫　光州

清水佐太郎　全州

[illegible]　光州

佐藤

杉本一　光州

中村安雄

朝鮮殖産銀行　木村松次

大田　村尾伊勢松

松田方仲　潭陽

命の最高峰（9）

平山蘆江作　布施長春畫

男の聲と、女の聲と、入れまじつて、三四人、戸の外で一寸の間ざわついたと思つたが、陽戸がガらりと開いて、
『越ちやん、大變よ』と、聞かぬしくかけ込んだのは麗沙子であつた。
一番機嫌の好い時、そして、一番良人に甘へる時麗沙子は諦川の名を、あなたと云はずに、越ちやんと呼ぶ。諦川の名は越の一字をリタルと訓ましてあるのだが、いつからとはなしに、皆の間で、エッちやん〳〵と呼びならはれてゐるのだ。
『騒々しいね、何が大變なんだい』と山路が云つて陰での囃子をからりとあけた。
『大變だわ。セツト崩はれてわ。越ちやんが落こつちやつたの』
『どこへ』

『どこへつて、雪の中へ』
『雪。雪が降り出したのか』
『さうぢやないの、セットの雪よ。本當はお砂のことさ。ほけほ』
『けがでもしたのか』と、寝床から、ムッツリした顔で、諦川が云つた。
『大怪我』
『嘘をつけ。大怪我をした人が、そんな元氣で飛び込むものか』と山路は、それでも、麗沙子の身のまはりをそこここと檢べてゐる。
『だつて大怪我にちがひないわ。絹谷プロダクションの所長さんと大文豪の久我紫光先生と、大監督の白鯨三千夫先生と、お揃ひで、わざ〳〵逢つて下すつたんだもの』
『ほう、素的だなア』
『大袈裟なことをいふな。びつくりするぢやないか。見ろ、まだ、胸がどき〳〵してゐるから』
病人はひどくお機嫌が悪かつた。
その上へおつかぶせるやうにして、耳元に唇をおつつけながら、
『あら、御免なさい、坊ちやん。こんな氣で云つたんぢやないの。あんまりをかしかつたから、さう云つたのよ』と、やわらかに、やわらかに謝した。
『おい〳〵、人前があるよ』と山路が大袈裟にいふと、
『可いわよ。猶さらよくはいて見てらつしやい』
さう、きめつけるやうに云つて良人の蒲團の上から胸を撫でてやつたりしたから、
『まア、本當に、動悸が弱くなつたわね。御免なさいね。麗アちやんがあやまるからさ』などと、笑顔が、とても仇氣ない。
『本當に落こつこつたのか』と山路がいふと、
『え、落つこつたのは本當。皆をびつくりさせたわ。だけど、お蔭の山と一緒にこぼれ落ちたんだから、怪我はちつともしなかつたの。怪我といへば、セットの方が大怪我よ。あれ修繕するのに、五六日はかゝるつて話だから、ここ四五日撮影は休みよ。そして、もう一遍うつしなほしといふ事になつたの、どうも御苦勞さま』
『本當に大騒ぎで逢つて來たのか』と、諦川の御機嫌が少しなほつた。
『さうよ。大袈裟だつちやありやあしないわ。まるでお祭りさわぎよ打寄つて逢からものなら、まだ〳〵宣傳部長までついて來さうだつたの』
『そんなに、いつも大勢が、團魏つてんのかい』
『さうぢやないのよ。命の最高峰は春の超特作でせう。只迚や、松竹に負けないやうにつて、うんと躍張つてんだから、皆が一生懸命よ。それにね――』
『それに』病人が上目をつかつてパッチリ開いた。
『それに、麗アちやんの人気が大へんよ』
パチリと両手を合して、腰がしらへ伸ばしながら、黒眼をくるくるとさせた。
『へん、買ひつてやあがらあ』と山路がいふと
『あら本當よ。嘘だなんて云ふくらゐなら、今、送つて來た連中に逃にしてやるんだつたのに、惜い事を仕ちやつたわ』
笑ひたくつてたまらないのを、こらへて、こらへて、麗沙子はいやにはしやぎきつてゐる。
『本當に、お歴々が送つて來たのか』と、諦川がいふと、
『え、さうよ。絹谷プロダクション宣傳部オンパレード』
『どこかへゆく道順なんだよ。は、』山路が馬鹿にしたやうにいふその口を片手でぴたりとおさへて、麗沙子が、
『本當はね、皆で麗アちやんを送つてんのよ。チッ、いやな奴等ね』
その隙が、諦川に聞えると、諦川が一喝
『馬鹿ッ』と怒鳴つた。

五日（新年宴會）

午前一一時五五分　時報　ニュース
午後〇時三〇分　氣象概況　各地天氣概況　仁川觀測所發表
同〇時四〇分

第四回JOAK子供新年大會

（日比谷公會堂より中繼）司會者　關谷五十二

一、御挨拶　日本放送協會關東支部常務理事　中山龍次
二、管絃樂　江東尋常高等小學校管絃樂團　指揮　佐藤　井上
（イ）君ケ代行進曲　（ロ）樂しき正月　井上將英編　青木光麗作　（ハ）子供の兵隊　同　（ニ）紅牡丹　同　（ホ）風鈴行進曲　瀬戸口
三、獨唱　東京高等師範附屬小學校五年生
一イ、我が帝國　文部省讀本　（ロ）ゆふぐれ　西村　（ハ）新兵さんの原足　本居長世作曲
二イ、敦盛と忠度　大和田建樹作詞　田村虎藏作曲　ロ、愛らしき花　大和田建樹作詞　ブラームス作曲　ハ、哀れの曲女　大和田建樹作詞　フオスター作
（三）埼玉縣女子師範附屬小學校六年生
（イ）木の葉　吉丸一昌作詞　作曲　（ロ）雛子ちやん　（ハ）故郷　文部省唱歌　（ニ）旅愁　犬童球溪作詞　アメリカ民謡
（四）ピアノ獨奏　作奏　關口　永田
（五）獨唱　一（イ）ねずみの餅ひき　（ロ）五・おいさん　（ハ）山の秋　千葉縣師範第二附屬高等小學校
二、水戸高等小學校
（六）木琴獨奏　小室　伴奏
（イ）凱旋ポルカ　山本銈三郎作曲　（ロ）蛙と蛙　アイレンベルグ作曲　（ハ）星と蛍　スーザ作曲
同一時四〇分　合の鈴オーケストラ　雅歌と流行歌
（一）日打鈴（二）桜桐（三）リヤ（四）放浪歌（五）江南春（六）浪花流水（七）三人友（八）國境外
同二時〇分　能樂（C）羽衣　金澤能樂堂より中繼　大金金春剛山
午後五時四五分　今晩のプログラム發表
同六時〇分　童話劇（C）お猿の顔はなぜ赤い、テキストセページ　名古屋雛菊童話會
同六時三〇分　浪曲口演　沈清傳（四）父女相逢の場　李東伯　池龍九
同七時〇分　ニュース、明日のプログラム發表
同七時三〇分　映畫物語（A）（一）挿揃ひの一夜（二）月形半平太　作奏指揮　渡邊一雅　説明　黒田英次郎　館岡天堂
作奏指揮　男澤瑞史　獨唱　中村悌子　詩吟　安田希山
同八時三〇分　連續大衆物語（B）（一）松五郎捕物帳の内　開けぬ納戸の娘　栗島狭衣　普通部連中
同九時〇分　かるた朗吟（B）
同九時三五分　氣象概況、各地天氣概況、時報　仁川觀測所發表

六日（水曜日）

午前一〇時三〇分　氣象概況、各地天氣概況　仁川觀測所發表
同一〇時四五分　料理獻立『豚肉の五目蒸』
日用品値段　京城府廳發表
同一一時五九分　時報、ニュース
午後〇時三〇分　落語
同一時〇分　家庭講座『正月の行事』　一　同德女高普　張今碇
同二時一五分　家庭講座
猿の話（一）　加藤　明芳
同四時〇分　ニュース、公示事項
同五時四五分　ラヂオ體操、職業紹介事項、今晩のプログラム發表
同六時〇分　子供の時間（A）吹奏樂
一、進軍行進曲　勝利の旗の下に、ブレー（二）月の輝、組曲　三、挨拶曲　四、子供のスーベニール作曲（ヒサマツ編曲）五、兵士の女王（スッペ作曲）六、行進曲ダブリンラン稀（ラン作曲）
指揮　豊島園音樂隊　久松鑑太郎
同六時三〇分　西道雜歌
一、慈心歌　二、孔明歌　三、巫女歌　四、アリラン新調　李映山　五、紅
同七時〇分　ニュース、公示事項
同七時三〇分　浪花節（B）義士銘々傳（大高源吾評價り）　吉田大和派
同八時二〇分　ヴァイオリンとピアノ（A）
一、湊鳴曲イ長調（フランク作曲）
アレグレット・ベン・モデラート　アレグロ　アレグレット・ポコ・モッソ　ベン・モデラート・ラルガメンテ
二、ヴァイオリン獨奏　白鳥（サンサンス作曲）
三、ピアノ獨奏
イ、即興曲變イ長調（ショパン作曲）　ロ、ポロネーズ嬰曲
ヴァイオリン　安藤幸子　ピアノ　マアシム・シヤピロ
同九時〇分　連續大衆物語（B）松五郎捕物帳の内　開けぬ納戸の娘（二）　栗島狭衣　普通部連中
同九時三五分　氣象概況、時報　仁川觀測所發表

落語

午後〇時二〇分

新春の圓之助さんが久し振りで御機嫌を伺ふことになりました　昭和七年の初放送です
或る長屋に住んでゐる獨り者、夜中にアト目を覺まして見ると近所で盛に鍋の音がしてやかましくて寐られない、それが毎晩の事故腹に据ゑかねて文句を云ひに行くと先方の男は俺は島田三郎だと云ふ島田三郎と云へば仙台公に船の中で殺された高尾の情人でお前の様な醜い男ではない筈だと受け答へないのでそれで島田三郎だと云ふ證據に高尾に逢はしてお目にかけ様と何かの香を火の中に入れると高尾の姿が現れる獨り者スッカリ感心して俺も死んだ女房に逢ひ度いから其の香の名を教へて呉れと頼むとこれは反魂香だと答へるので大いに喜び早速薬房に駈付けて種々滑稽を演じあまり慌てたのではんごん丹を間違へて買つて歸り火中にくべて待てど暮せど女房の姿は出て來ればこそ、獨り者長屋の中で大いに與太の連發をやらかさうと云ふ笑ひ一席

演藝案内

大正館

◎新春四日封切映畫　◇松竹特作時代劇◇假名手本忠臣蔵
松竹キネマ蒲田映畫　原作脚色　突貫小僧
青の力　全五巻
ニセア・ナンセンス・メズン　コリ・カクテル
女の求むる男　全十巻
まぼろし峠
維新血涙史

京龍館

一月四日より三日間上映
輕垂血笑記
荒療治・手引受
紅唇なやまし

東亞倶樂部

新春第二週四日より封切
清水次郎長
幸運百二〇セント
橋から橋へ

浪花館

泊町一　京城劇
女流高岐界の美人連
大津検花奴一行
入場料特別大勉強

中央館

酒は涙か溜息か　全七巻
決死隊　全十巻

朝鮮劇場

足輕武平　全六巻
市街　全十巻

喜樂館

行進曲　全九巻
白い姉　全十六巻

朝日座

本町五丁目
心の血煙
新派劇
中島寶蝶　一座
薩摩芋　二場
つがい蝶　一場
親心　二場
嵯峨の初雪　一場

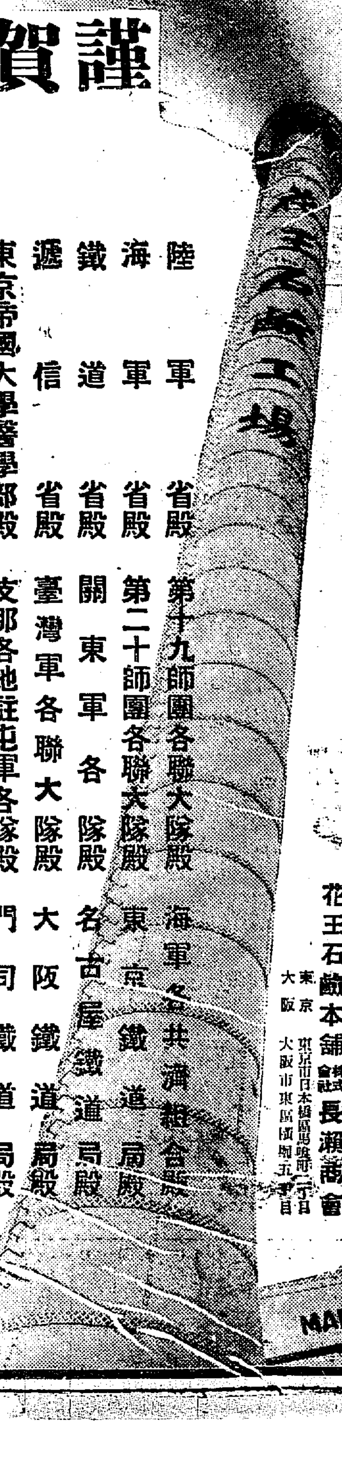
京城寶塚館

本町三
曾我廼家一行　男女優四十餘名
一　**千圓の茶**　一場
二　**誰が彼女を**　二場
三　**追はれゆく女**　一場
四　**老人の初戀**　三場

謹賀新年

花王石鹸

永年の御用命を感謝し奉る



陸軍省殿
海軍省殿
鐵道省殿
遞信省殿
東京帝國大學醫學部殿
京都帝國大學醫學部殿
東北帝國大學醫學部殿
九州帝國大學醫學部殿
北海道帝國大學醫學部殿
京城帝國大學醫學部殿
新潟醫科大學殿
岡山醫科大學殿
千葉醫科大學殿
金澤醫科大學殿
長崎醫科大學殿
熊本醫科大學殿
大阪醫科大學殿
名古屋醫科大學殿
京都醫科大學殿
滿洲醫科大學殿
慶應義塾大學醫學部殿
東京慈惠會醫科大學殿
日本醫科大學殿
東京女子醫學專門學校殿
近衛師團各聯大隊殿
第一師團各聯大隊殿
第二師團各聯大隊殿
第三師團各聯大隊殿
第四師團各聯大隊殿
第五師團各聯大隊殿
第六師團各聯大隊殿
第七師團各聯大隊殿
第八師團各聯大隊殿
第九師團各聯大隊殿
第十師團各聯大隊殿
第十一師團各聯大隊殿
第十二師團各聯大隊殿
第十四師團各聯大隊殿
第十六師團各聯大隊殿

第十九師團各聯大隊殿
第二十師團各聯大隊殿
關東軍各隊殿
臺灣軍各聯大隊殿
支那各地駐屯軍各隊殿
南滿洲獨立守備隊殿
全國各衛戍病院殿
陸軍各學校殿
陸軍各工廠殿
陸軍各兵器廠殿
陸軍科學研究所殿
陸軍衛生材料廠殿
陸軍軍馬補充部各支部殿
陸軍被服廠殿
陸軍各偕行社殿
横須賀鎭守府殿
呉鎭守府殿
佐世保鎭守府殿
舞鶴要港部殿
馬公要港部殿
大湊要港部殿
鎭海要港部殿
第一艦隊殿
第二艦隊殿
練習艦隊殿
支那沿岸警備各艦殿
横須賀海兵團殿
呉海兵團殿
佐世保海兵團殿
横須賀海軍病院殿
呉海軍病院殿
佐世保海軍病院殿
海軍各要港部病院殿
海軍各學校殿
海軍各航空隊殿
海軍各工廠殿
海軍造兵廠殿
海軍各水交社殿
海軍各下士集會所殿

海軍各共濟組合殿
東京鐵道局殿
名古屋鐵道局殿
大阪鐵道局殿
門司鐵道局殿
仙臺鐵道局殿
札幌鐵道局殿
南滿洲鐵道株式會社殿
朝鮮鐵道局殿
傳染病研究所殿
理化學研究所殿
臺灣總督府各醫院殿
朝鮮總督府道立各醫院殿
樺太廳各醫院殿
各府縣立病院殿
全國各地公市立病院殿
日本赤十字社各病院殿
恩賜財團濟生會各病院殿
支那各地同仁會各醫院殿
東京横濱同愛記念病院殿
財團法人泉橋病院殿
聖路加國際病院殿
各地方專賣局殿
日本郵船株式會社殿
大阪商船株式會社殿
日清汽船株式會社殿
北海道炭鑛汽船株式會社殿
八幡製鐵所殿
室蘭製鋼所殿
三井鑛山株式會社各購買殿
三菱鑛業株式會社各購買殿
住友合資會社各工場購買殿
日本鑛業株式會社各購買殿
古河鑛業株式會社各購買殿
全國各紡績工場殿
全國各製紙工場殿
全國各造船所殿
全國各消費組合殿
全國各學校購買部殿

花王石鹸本舗　株式會社長瀬商會
東京　東京市日本橋區馬喰町二丁目
大阪　大阪市東區横堀五丁目